



東京大学
THE UNIVERSITY OF TOKYO

学内広報

for communication across the UT



特集：

- オープンキャンパス 2007
- 「東大ナビ」 はじまります！



130TH
THE UNIVERSITY OF TOKYO

2007.9.14

No. 1363

オープンキャンパスとは？

高校生・受験生に大学を公開し、施設の見学や模擬講義、学生との懇談等を通して本学への理解をより深めてもらおうというイベントです。

多くの他大でも行われており、本学では2000年より開催されています。今回の特集では当日の様相をご紹介します。



毎年恒例の夏のオープンキャンパス。今年も8月1日(本郷地区キャンパス)・2日(駒場地区キャンパス)の2日間に渡って開催されました。

今年の本郷地区キャンパスでは混雑回避のため、銀杏並木に加えて農学部にも総合受付を設置。それでも朝にはたくさんの参加者が詰め掛けました。炎天下の中でしたが、参加者の、「興味のある企画に、ひとつでも多く参加しよう」と積極的な姿勢が印象的でした。

8月1日 本郷キャンパス

研究所等施設見学

今年も以下の施設を終日開放。事前申し込みなしの当日参加者にも見学してもらいました。

- ・総合図書館
- ・総合研究博物館
- ・史料編纂所
- ・東洋文化研究所

キャンパスツアー

現役学生による本郷キャンパスの見所案内ツアー。今年は去年よりも回数を増やし、全18回行いました。

東大生ガイダンス

学生生活全体のレクチャーの後、参加者は各学部ごとに分かれて現役学生と話しました。

地震研究所

実験、展示の自由見学に加え、研究所ツアーも3回行われました。

分子細胞生物学研究所

「高校生のための生命科学シンポジウム」が行われました。

女子学生コース

現役女子学生、卒業生が大学生活を説明。パネルディスカッションや交流会も催されました。

法学部

『法』と『政治』を舞台とした知の躍動:君も体験しよう、法学部スタッフが誘う意外に身近な世界

政治学・法学の模擬講義と併せて、文献の展示・解説等も行われました。

工学部

未来を拓く工学研究のフロンティア:最先端工学知との出会い

講義と学生による学生だんわ室、多種の学科企画が実施されました。

医学部

生命科学の核、それは人間をみる医学です

模擬講義と病院見学、医学図書館所蔵資料見学が行われました。

文学部

君を探せ! 人間という迷宮の中で

研究室ツアー、模擬講義、質問コーナーの3つの企画が行われました。

Start!!

総合受付でMAP、当日のスケジュールをもらって、いざ出発!



8月2日 駒場キャンパス

2日には駒場キャンパスでのオープンキャンパスが開催されました。当日の参加者数1,823名は昨年の実績を上回るものであり、今年のオープンキャンパスは昨年以上の盛会でした。午前中は、主企画(学部長挨拶とキャンパス紹介)が2会場で行われました。別会場では主に当日受付者を対象に、小柴昌俊特別荣誉教授の学術俯瞰講義の放映や教員との懇談会、さらに、父母・引率者を対象としたキャンパス紹介、駒場友の会の企画である学生の手によるピアノとチェロの演奏会が催されました。

主企画が終わった後は、2つの総合講演(理系の話題と文理融合の話題)が並行して実施されました。午後は、8つの模擬講義が2つの時間帯に分けて4会場並行して行われ、さらに実験デモ展示のコーナー(物理実験、化学実験、低温実験、生物実験、COE「心とことば」、学生による質問コーナー)も設置されました。これら以外には、図書館、駒場博物館、情報教育棟の各施設、駒場Ⅱキャンパス研究室の見学が実施されました。各企画のアンケート評価は上々で、多くの参加者に満足していただきました。特に、総合講演、図書館のガイドツアー、実験デモ展示、教員との懇談会ならびに学生による質問コーナーは好評でした。

Finish!!

両日とも天候に恵まれ、参加者は本郷約5,800人、駒場約1,800人と去年を上回りました。
企画の準備、当日の運営と、関係者の皆様お疲れ様でした!

理学部

0から1へ。無から有を生む理学の神秘に出会う1日に、ぜひご参加ください

実験の実演、施設見学や展示、現役学生による講習会などが行われました。

経済学部

「経済学」は社会現象を読み解く手法です

模擬講義と施設見学が実施されました。

農学部

生きものと生きものを生みだすもの：生命科学のフィールド科学の最先端をお見せします!

概要説明の後、模擬授業、研究室見学が実施されました。

教育学部

皆さんの先輩達が質問に答えますので、何でも聞いちゃいましょう!

学部の概要説明、模擬講義、現役学生によるガイダンス、学生・教員への質疑応答が行われました。

薬学部

幅広いライフサイエンス研究の最先端の雰囲気を感じよう

学部長挨拶の後、研究室見学と平行して、学部3年生による進学相談が行われました。

10月より、携帯電話による新たな学内情報サービス「東大ナビ」がスタートします。
この特集では、サービス開始にさきがけて、「東大ナビ」の概要をひとつおとり、ご紹介しましょう！



東大ナビとは？

学内外に向け携帯電話を通じて教育イベント情報をお届けするサービスです。「東大ナビ」では、携帯サイトで学術俯瞰講義や公開講座、学内で開催される教育イベント情報を宣伝します。加えて、QRコードや空メール送信によりメールアドレスを登録した皆様の携帯電話に、最新の教育イベント情報を、メールマガジンで定期的にお届けします。

皆様には学内教育イベントの情報収集・広報活動の媒体としてご利用頂けます。是非「東大ナビ」をご活用ください！

対象となるイベント

- ★学術俯瞰講義
- ★東京大学公開講座
- ★教育企画室が
主催・共催となるもの
- ★本部広報グループより
情報提供されたもの
- ★本学各部局より
情報提供されたもの

このような方に 情報をお届けます

- ★学内の教育イベントに興味を持つ
学部生・大学院生
- ★学内の教育イベントに興味をお持ちの
大学内部・外部の方々

「東大ナビ」 誕生の経緯

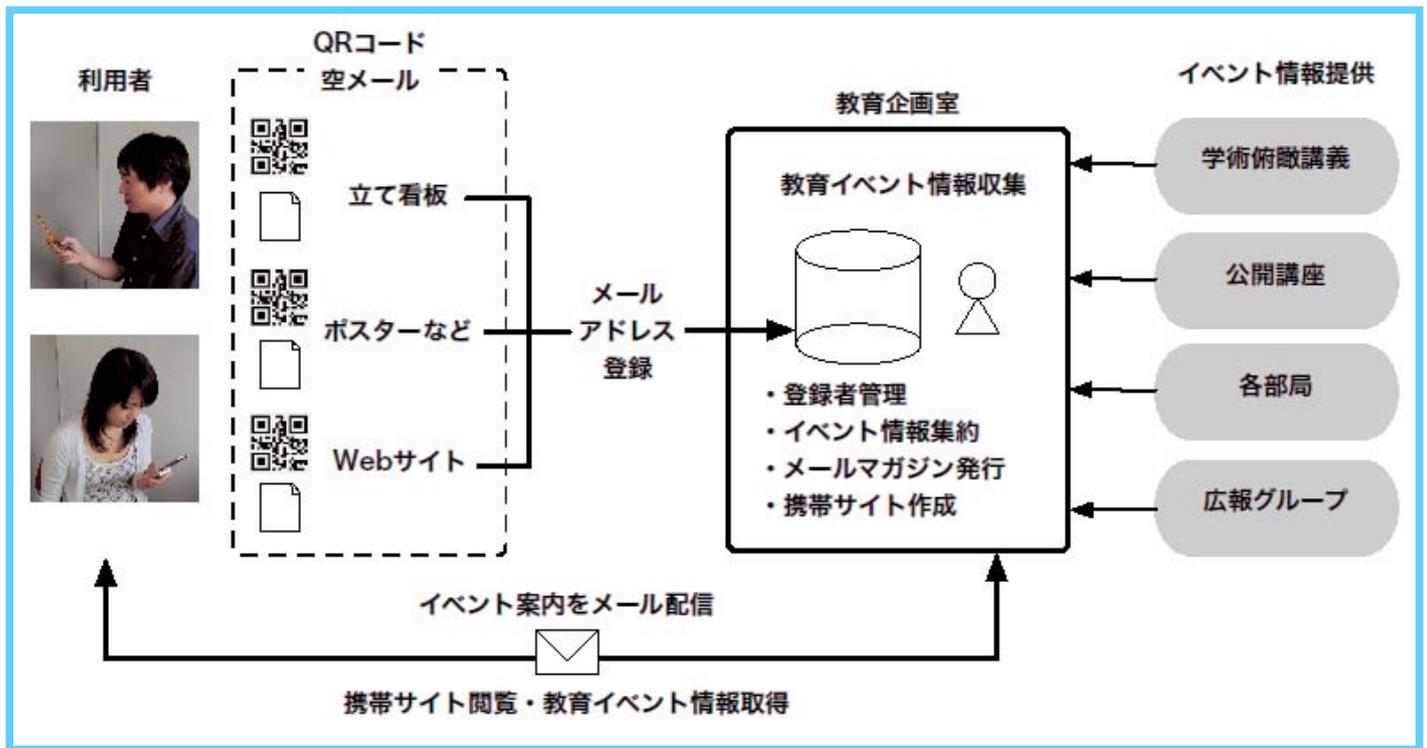


大学総合教育
研究センター

特任助教 重田勝介

本学では学術分野・各界の著名人を対象とした学術俯瞰講義やシンポジウムなど、学内外の教育イベントを継続的に実施しています。しかし、学内での教育イベントに関する情報は、必ずしも周知されていない状態です。また、大学本部ではポスター掲示など、Webサイトをも通じてこれらの広報に取り組んでおられます。

しかし近年、特に学生の情報への関心が高まり、スマートフォンやタブレット端末など、様々なデバイスからインターネット環境に接続できるようになりました。この変化を捉え、学内外の教育イベントに関する情報を、より多くの方に届けるため、「東大ナビ」を、学内外の皆様が情報収集・広報活動にご利用いただければ幸いです。



「東大ナビ」をお使いいただくメリット

学内外へイベント情報を
ダイレクトに告知可能

学内外へ直接リーチ
しうる情報インフラ

メールマガジン発行・携帯サイト
運営は教育企画室で担当

学内外への
イベント周知拡大
・参加者増加！

携帯電話を使った
ダイレクトな
広報媒体を獲得！

教育イベント情報をご提供
いただくだけで携帯電話を
使った広報が可能！

「東大ナビ」を利用するには・・・

「東大ナビ」に登録したい方

★右端のロゴ（東大ナビはじまる）にありますQRコードを携帯電話で読み取っていただくか（登録メールが送信できます）、”mail@utnav.jp”に空メールをご送信下さい。「東大ナビ」より登録確認メールが届きますので、登録手続きを行えば完了です。

★携帯サイトutnav.jpからも登録可能です。

「東大ナビ」を
教育イベント
広報にお使いに
なりたい方



問い合わせ先：教育企画室 TREEオフィス
内線27823（重田）
info@tree.ep.u-tokyo.ac.jp
本郷キャンパス第二本部棟401号室

NEWS

米国化学会賞受賞

大学院薬学系研究科・柴崎正勝教授の2008年度米国化学会賞受賞が決定いたしました。

柴崎正勝 大学院薬学系研究科長・薬学部長

薬学系研究科有機合成化学教室の柴崎正勝教授が、アメリカ化学会の2008年度 "ACS Award for Creative Work in Synthetic Organic Chemistry" を受賞することが決定しました。Aldrich社により支援されているこの賞は、有機合成化学における傑出した独創的研究者に与えられるものです。1957年に創設された本賞の受賞者(50名)には、9名のノーベル化学賞受賞者が含まれ、日本人としては1978年MIT正宗悟教授、1980年ハーバード大岸義人教授、1996年本学名誉教授向山光昭教授、2004年の本研究科福山透教授について5人目です。



柴崎教授は、医薬等の合成において有用な不斉触媒を設計するための基本的な概念として「多点認識概念」を世界に先駆けて提唱しています。「化学反応とは二つの反応剤間の結合形成である」という根源的な点に着目し、二つの基質をそれぞれ選択的に活性化する部位を単一不斉触媒中に組み込む事で結合形成の方向が不斉触媒によって精密に制御され、高い立体制御が期待できるとい考え方です。この考え方をもとに、酸と塩基の2つの機能を同一触媒内に組み込む事により、それまで困難であった反応を高い立体選択性で進行できるようになりました。柴崎研究室で開発された多点認識型の不斉触媒は30種類近くにも及び、それぞれが特色のある化学反応を促進します。なかでも、独自に開発した不斉触媒反応を鍵とした抗インフルエンザ薬タミフルの世界初の完全人工不斉合成の達成は記憶に新しいところです。

柴崎教授の業績は世界的に注目されており、不斉触媒

分野において過去10年間でもっとも引用回数が多いことが報道されました。この業績に対し、アメリカ化学会賞(2002年、アーサー・C・コープシニアースカラー賞、米国)、紫綬褒章(2003年)、日本学士院賞(2005年)、王立化学会センテナリーメダル-レクチュアースhip賞(2008年、英国)をはじめとして14に及ぶ栄誉ある賞を受賞されています。研究面のみならず、薬学系研究科長・学部長(2006~2007年度)、日本薬学会会頭(2006年度)、日本薬学会顧問、日本学術会議正会員等の要職を務められています。

英国王立アカデミー・フェロー

大学院工学系研究科・笠木伸英教授が今年度の英国王立工学アカデミーのフェローに選ばれました。

笠木伸英 大学院工学系研究科教授



7月9日(月)、英国王立工学アカデミー(Royal Academy of Engineering)は今年度の新フェロー会員を公表したが、唯一人の国際フェローとして、大学院工学系研究科・笠木伸英教授が選ばれた。同教授の機械工学分野での優れた研究業績と、世界の工学コミュニティを繋ぐ幅広い国際活動が認められた。

日本人としては6人目で、過去には、岡村総吾氏(本学元工学部長)、豊田章一郎氏(トヨタ自動車名誉会長)、吉川弘之氏(本学元総長)らが選出されている。フェロー認定授与式は来る11月5日(月)ロンドンにて行われ、式後、エディンバラ公爵フィリップ王子主催の祝賀晩餐会が開催される予定。

王立工学アカデミーは、英国における工学トップリーダーにより組織され、工学・技術の強化を目指す一方、政府や関係機関に対して政策提言を行うなど重要な役割を果たしている。

笠木教授の専門分野は、熱流体工学、エネルギーシステム工学、乱流工学など、日本学術会議会員、王立スウェーデン科学アカデミー会員、日本工学アカデミー会員、Int.J. Heat Fluid Flow 主幹編集者、世界実験熱流体アセンブリ副会長、熱物質輸送国際研究センター執行理事などと共に、現在21COE機械システム・イノベーション拠点リーダーを務めている。

本受賞をお祝いし、一層のご活躍をお祈りする次第です。(21COE 特任講師 山田知典)

一般ニュース

本部学生交流企画グループ

Yale Summer Session 開催される

一般

7月7日（土）から8月11日（土）の36日間、本郷キャンパスにおいてYale Summer Sessionが行われた。このプログラムは、アメリカ合衆国イエール大学が行っている同大学学生向けの5週間のサマープログラムで、本学としては初めての受入れとなった。イエール大学からは講師である濱田宏一イエール大学経済学部タンテックス教授（本学大学院経済学研究科名誉教授）をはじめ学生11名（学部生2、3、4年生）、アシスタント1名の合計13名が来学し、また本学学生4名も聴講生として講義に参加した。



本学学生によるキャンパス案内

講義は主に医学部教育研究棟セミナー室で行われ、前半は講義形式、また最終週にはそれぞれの学生からのプレゼンテーションが行われた。本学でのサマープログラム実施は初めてであったが、総じて参加学生の満足度も高く、実りあるプログラムとなった。



講義の様子

イエール大学一行の滞在中に行われた学内キャンパス案内や都内近郊へのエクスカージョンへは多くの本学学生も参加し、今回のサマーセッションがイエール大学学生と本学学生との良い学生交流の場ともなった。また最後のフェアウェルパーティーでは空手部による演武などもあり、盛会であった。



フェアウェルパーティー後の全体集合写真
中央にイエール大学 濱田教授と浅島理事・副学長

環境安全本部

「総長による安全衛生パトロール」 実施される

一般

8月2日（木）、理学部3号館において総長による安全衛生パトロールが実施された。今回は昨年度に引続き2回目であり、理学系研究科長による安全衛生パトロールとの合同開催となった。

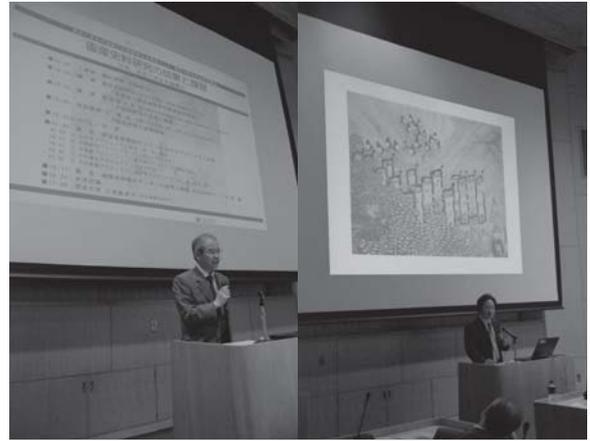
総長によるパトロールは、本学の安全衛生に対する姿勢を総長自ら示したものである。

当日は、小宮山総長をはじめ、岡村理事・副学長（環境安全担当）、中西環境安全本部長ほか環境安全本部7名、山本理学系研究科長ほか理学部安全衛生管理室4名などにより、4研究室の実験室等を巡視した。

担当教員から研究内容の説明を受けた後、実験機器の安全な使用、保護具の着用、薬品の保管状況、電気配線の状況、棚の固定などについての現状をつぶさに見て回り、安全衛生の確保と教育研究の発展について認識を新たにした。



実験機器の安全使用についての意見交換の様子



(左) 映し出されたプログラムのもとで挨拶する横山所長
(右) 本所所蔵「倭寇図巻」などに基づき講演する王勇氏

部局 ニュース

史料編纂所
画像史料解析センター開設 10 周年記念研究集会
「画像史料研究の成果と課題」を開催

6月29日(金)、山上会館大会議室において、史料編纂所(横山伊徳所長)主催の研究集会「画像史料研究の成果と課題」が開催された。この集会は、附属施設画像史料解析センターの開設10周年を記念し、本学創立130周年記念事業の一環として行われたものである。

画像史料に関する戦略的蓄積と方法的懐疑による解析研究の一層の発展を求めた横山所長の挨拶に続き、「洛中洛外図屏風」新出本を基に研究の醍醐味を示した黒田日出男立正大学教授(元センター長・所長)、荘園絵図研究における本センター開設の意義を明らかにした青山宏夫国立歴史民俗博物館准教授(センター客員教員)、本所所蔵「倭寇図巻」と中華人民共和国国家博物館所蔵「抗倭図巻」(未公開)との比較を初めて行った王勇浙江工商大学日本文化研究所長などの興味深い記念講演があった。

休憩を挟んで、集会の眼目であるセンター研究プロジェクトの活動報告が行われた。開設以来33プロジェクトが立ち上げられ、現在12のプロジェクトが活動しているが、そのうちから、写真家・中濱(ジョン)万次郎の功績を新発見し、その成果がテレビでも放映された「古写真」、中核的な活動を担い『日本荘園絵図聚影』を編纂出版するとともに新たなデータベース機能を提供する「荘園絵図」、世界的にも比類のない16世紀初頭に作成された本所所蔵肖像画の研究成果を報告した「肖像画・一遍聖絵」、インターネットによる画像史料公開に大きな意義を持つ「近世儀礼」、日本史研究に不可欠の花押と崩し字に関する解析的研究を進める「花押彙纂・崩し字」など、充実したプロジェクト報告が続いた。

引き続き、林センター長による中間的な総括が報告され、全体的討議が行われた。最後に、久留島副所長より閉会の辞が述べられ、4時間以上に及ぶ集会が終了した。

参加者は150名余りを数え、画像史料とその研究に高い関心があることを実感させられ、これまでの実績と今後の重責に想いを新たに集会であった。



会場の様子

教育学部附属中等教育学校で『学びの共同体』の授業検討会実施される

部局

7月5日（木）、教育学部教授の佐藤学先生をお招きして、『学びの共同体』の授業検討会が行われた。5時間目に2年生の国語の授業を、6時間目に5年生の理科総合の授業を全員の先生で参観した。

2年生の国語の授業は「論語」への導入であり、漢字が伝来し、当時の人々がそれをどう訓読していったかという苦闘を追体験するものであった。生徒たちは、漢字そのものの訓読みを辞書で調べながら、聖徳太子の十七条憲法から論語へと白文を読み込んでいった。

5年生の理科総合は遺伝子について行った。DNAの螺旋がどのように発見されていったのか、またAGCTのそれぞれの数によって、配列のペアが決まってくることなど、とても高度な情報を学び、自分のものとしていった。

授業検討会には、中野区の教育長や群馬の中等教育学校の先生など、他校からも多くの先生方がお見えになり、意見を交換し合った。理科の授業は、内容が大変高度であり、それが逆に生徒の興味関心を引き、積極的な話し合いを引き出していたとの意見が出された。国語の授業は、生徒はよく活動していたが、夢中になったりのみりこんだりする姿が見られず残念であったとの指摘もあった。

今後もこのような開かれた検討会を計画しており、今後の予定は、10月15日（月）と1月25日（金）。詳細についてはホームページに掲載中。教科を超えた授業検討会として今後もさらに発展させていくとともに、校外からも多くの方のご参加を仰ぎ、よりよい授業検討会にしていきたい。多くのご参加をお待ちしています。



5時間目の授業風景



6時間目の授業風景



授業検討会の様子

三鷹国際学生宿舎で「七夕パーティー」開催される

部局

7月7日（土）、三鷹国際学生宿舎の共用棟ホールにおいて、宿舎内の自治組織である宿舎生会（宿舎に居住する全学生を構成員とする組織）と院生会（留学生の宿舎生活を支援する日本人大学院学生によるチューター組織）との共催により、七夕パーティーが開催された。

この会は昨年10月より駒場で留学生生活を送ってきた12期 AIKOM 生を始めとする、9月で三鷹宿舎を離れる留学生の歓送会と宿舎生全体の親睦会を兼ねたもので、述べ100人を超える宿舎生が参加した。



七夕飾りで彩られた会場

長谷川壽一教養学部副学部長や三鷹クラブ（旧三鷹寮OBの会）、宿舎生会による挨拶の後、留学生・日本人学生有志によるパフォーマンスが行われた。留学生が母国の歌や踊りを日本人学生のピアノの演奏に合わせて行ったり、夏の風物詩としてのスイカ割りが行われるなど、笹や短冊で装飾された会場は大変な盛り上がりを見せ、院生会挨拶と教養学部長を始めとする大学関係者からのメッセージ上映で幕を閉じた。

参加した留学生からは、「折角ここで出会えた人たちと別れてしまうのはとても寂しい」「もっとこのような会があっても良いのではないか」という声が聞かれた他、「自分の母国では、女性は自転車に乗らないので、ここでの自転車生活は貴重な体験だった」という、陸の孤島(?)三鷹宿舎ならではの感想も聞かれた。

三鷹国際学生宿舎では約600人の学生が生活しており、そのうち約3割を留学生が占めている。居住する日本人大学院学生約30名で組織される院生会と、国際交流に興味を持つ学部学生により、留学生の受け入れやガイダンス、各種イベント等が企画・実行されており、活発な国際交流の場になっている。



お見事！盛り上がったスイカ割り

大学院農学生命科学研究科・農学部

農学部獣医学専修5年生の附属牧場
実習日記

附属牧場では、多種の大型産業動物を飼養・維持している。ここでは、学部及び大学院生に対し獣医学専修及び関連専修・専攻の学生に対して牧場でなければ実施しえない大型産業動物を用いた学生実習と講義を行っている。加えて、生物資源科学専修や教養学部のフィールド科学関連実習等も担当し、教育に広く貢献している。

今回は、7月8日(日)から14日(土)まで、獣医学専修5年生と大学院生の計36名が参加した。生活の主体が「牧場の宿舎を中心とする牧場内」という隔離された環境のなかで、繰り広げられた獣医臨床実習の様子を紹介する。



安全教育を傾聴する実習生

実習初日、11時38分に岩間駅に着いた一行は、迎いのバスに乘車して、牧場に到着した。昼食前に安全教育を受講した。牧場では、昨年度制定した「牧場利用ガイドブック」をベースに、今年度新たに学生実習用に作成したマニュアルが全員に配布され、事務室職員らから牧場利用や実習に関わる安全教育を受けた。昼食後、性生殖器の解剖実習と翌日の基礎実習ガイダンスを受講して、初日は終了した。夕食後、指導教員は、翌日からの実習に備え時間を忘れてスタッフミーティングに耽っていた。

9日(月)からは、実習生は2班に分けられ、牛と馬の身体検査(視診、触診、打診)と基礎項目(個体識別、品種、用途、年令算定、保定方法)を実習した。9時から各々厩舎と牛舎へ移動した。この実習の目的は、牛や馬と如何にコミュニケーションを図れば、安全に取り扱うことができるか習得することにある。午後は、各班が入れ替わって同様に実習し、その後夕食を挟んで、翌日の検査実習ガイダンスと外科手術講義を夜遅くまで受講した。

10日(火)は、牛と馬の血液、尿などの検体採取を行った後、血液検査、糞便検査、尿検査、胃汁検査及び感染症検査を夜まで行った。その後夕食を挟み、翌日の手術実習及び繁殖実習のガイダンスと臨床検査講義を夜遅くまで受講した。

11日(水)と12日(木)は、牛と馬を用いた繁殖学実習及び牛の外科実習を行った。中でも、直腸検査・膣検査は、学生にとってインパクトの強いものであった。これは、牛や馬の肛門から直腸の奥に向かって腕を肩まで入れ、直腸壁を介して卵巣の卵胞発達や黄体形成などを触診する検査である。4日目、5日目ともなると、実習生はもとより、牛や馬も妊娠診断や子宮洗浄などの負荷によるストレスなどで疲弊してくる。



直腸検査実習を行っている様子

13日（金）は、牛と馬を用いた人工授精や削蹄を実習した。削蹄は、蹄を切って形を整えるもので、ベテラン職員でも時に労災事故に遭遇する危険な作業である。蹄は、家畜の健康状態を左右する大切な部位なので、適切な形を保たなくてはならない。実習生が近づくと家畜は逃げ惑う。ストレスと疲弊のピークのようなのだ。如何に家畜の立場に立って心をつかむか容易に答えはでない。牧場の主な収入源は、乳牛から搾乳した生乳の販売である。ただでさえ日本の夏場の暑さは、乳質の低下や乳量の減少を引き起こすが、実習によるストレスと疲弊がこれに輪をかける。社会に貢献する獣医師を育成するための教育の代償でもある。

当日の夕食は、実習中唯一の楽しみバーベキュー。雄大な大空のもと、険しかった表情も和み、実習での苦勞などなかったかと錯覚さえ感じられる時だ。明日は最終日、これで牧場実習も通算3回目、機会を得れば又訪れたい。



和やかに始まったバーベキュー

実習に参加した学生は、都会（机上）とは違い、牧場（自然）の中で家畜を実物（体）として肌で感じ取ることができた。牧場実習は、昭和24年に牧場が開設された当初からの歴史があり、時代とともにその内容は変遷してきてはいるが、いつの時代にも変わらないものがある。それは、得難い貴重な体験として、いわば隔離状態(?)ならではのコミュニケーションが図られること、又、

技術職員や教員が伝承してきた技術や徳育を直に学ぶ取ることができることである。牧場は、緑豊かな環境の中で家畜と人が創り出す「心豊かな人間を育む場所」である。

医学部附属病院
 部局
 「2008 看護フォーラム」での看護師募集活動について

医学部附属病院では、今年も昨年に引き続き、7月29日（日）に東京ビッグサイトにて開催されたナース専科看護フォーラム事務局主催の「2008 看護フォーラム（合同就職説明会）」に参加しました。

昨年の看護フォーラムでは、当院のブースに予想をはるかに超える数の学生が訪れたため、ブース数を去年の2ブースから今年は4ブースに増やし、余裕を持って学生に説明ができるよう臨みました。当日の会場内は、各医療機関の説明を熱心に聞く学生達の熱気に満ち、昨年にも増して当院のブースに大勢の学生が集まり、4ブースでも対応もしきれない程の盛況ぶり、充分に用意したパンフレットも足りなくなる程でした。

学生への対応は、榮木看護部長を筆頭に、救急部、集中治療部の医師、看護職員及び事務職員が訪れた学生一人一人に対し当院の魅力について丁寧に説明し、それに対して多くの学生から積極的に質問が寄せられました。

今年は、新たに「現役ナースと語ろう」コーナーを設け、学生からは「採用2年目の若手現役看護師から生の声を聞くことができ、貴重な体験である」と、とても好評でした。

今年も昨年以上に学生達の当院への関心の高さが伺え、看護学生からの注目度が年々高まっている事を実感した次第です。



大勢の学生で賑わう東大病院ブース
 （説明は、榮木看護部長、中島救急部医師）

また、7月8日（日）には、新宿野村ビルで開催された「急性期病院合同就職説明会」（主催：㈱スーパーナース、㈱グッピーズ）に参加し、東大病院ブースを開設しました。今回の合同説明会は、急性期病院のみを限定とした初めての合同説明会の開催で、看護学生がどの位集

まるのか不安がありましたが、こちらでの当院ブースにも大勢の学生が訪れ、ブースから学生が溢れてしまう程の盛況ぶりです。両日を合わせ、合計250名以上の看護学生が当院のブースを訪れてくれました。

今年の看護学生の就職事情ですが、年々全国的に看護職員の確保に対する動きが早まっており、各医療機関も昨年以上に看護職員の確保には力を入れているために、当院も9月の採用試験まで気を抜かず、積極的な採用活動を行なっていきたいと考えています。



若手先輩ナースの話を中心に熱心に聞く学生達

海洋研究所

海洋研究所一般公開

海洋研究所は、恒例の一般公開を海の日の7月16日(月)に岩手県大槌町地区の国際沿岸海洋研究センターで、7月21日(土)に中野地区で開催した。

中野地区では来場者が例年比3倍の700名を超える大盛況であった。参加型で楽しめる多数の催しが企画され、来場者の満足度も非常に高く、「しらす干し」という日常生活の中の意外な素材を使っての大人も子どもも熱中したプランクトン探し、海藻押し葉作り、竜巻の起こる仕組みを分かりやすく説明する装置等の他、アイデアと工夫を凝らした数多くの企画や展示が行われた。



展示パネルを熱心に見る来場者達 (中野地区)

大槌地区では地元役場や地域のマスコミ等の協力を得て、近隣の市町村から約1,250名の方が訪れ、毎年このイベントが地域ぐるみでしっかりと根付いている証であることが感じられ、沿岸に位置する町ならではの海洋科学の重要性に関する興味や関心の高さがうかがわれた。

海洋研究所では、海洋科学に関する研究の情報を一般の方々に公開して海洋研究の最前線に触れていただき、研究所への理解を深めていただくために、今後も一般公開をさらに充実して開催していくこととしている。



「海のめぐみを考えよう」の手工品・工作の説明に聞き入る親子達 (中野地区)



タッチプールで恐る恐るタコに触る子ども達 (大槌地区)

分子細胞生物学研究所

「独創的研究の神髄をコーンバーグ父子から学ぶ」 東京大学堀場国際会議東大130周年記念事業 開催される

7月22日(日)と23日(月)の両日、Toward innovative research: Lessons from the Kornbergs と題するシンポジウムシリーズが開催された。アーサー・コーンバーグ (1959年ノーベル生理学賞受賞、スタンフォード大)、アーサーの長男のロジャー・コーンバーグ (2006年ノーベル化学賞受賞、スタンフォード大)、同次男のトム・コーンバーグ (カリフォルニア大) 各教授を招聘し、二日間に渡るシンポジウムを行った。22

日は安田講堂において上記のタイトルのもと、3名が揃って、科学的興味の赴くまま追求された基礎研究が生命の謎を解き明かした自身の研究を語り、会場からの質問にも答えた。3名の講演に先立って小宮山総長が、開会の辞として、昨今の日本の科学予算がプロジェクト指向になり、真のブレークスルーをもたらす基礎研究が軽視されている現状に危惧を表明した。続いて、かつて、アーサー・コーンバーグ教授の研究室に在籍した新井賢一名誉教授がコーンバーグ家の歴史を紹介した。約900名近い聴衆は、基礎科学研究の重要性と一途に研究を続ける科学者の姿勢に強い印象を受け会場を後にした。講演会の後に、アジア環太平洋分子生物ネットワークの支援により、学生とコーンバーグ父子の交流会が山上会館で行われ、閉会の時間が過ぎても歓談は続いていた。

23日はアーサー・コーンバーグ教授を中心に、シンポジウム「ストレス応答の中軸をなるポリリン酸の生命機能」(医科学研究所講堂)、トム・コーンバーグ教授を中心にシンポジウム「コンパートメントとシグナリングセンターの発生物学」(弥生講堂)およびロジャー・コーンバーグ教授による講演会「真核生物転写機構の分子基盤」(医学部鉄門講堂)が開かれた。2日間にわたるコーンバーグ父子との学問的交流は130周年を迎えた東京大学の今後の研究教育の大きなヒントになった。全面的な財政支援をいただいた堀場国際会議に深く感謝したい。また、本シンポジウムは医科学研究所、医学部、分子細胞生物学研究所をはじめ多くの方々によって準備、運営された。



聴衆の質問に答えるトム・コーンバーグ氏、アーサー・コーンバーグ氏、ロジャー・コーンバーグ氏 (写真左から)

教養学部・大学院情報学環・大学総合教育研究センター
駒場アクティブラーニングスタジオ (KALS) 開設・竣工披露式典及び祝賀会を開催

教養学部・大学院情報学環・大学総合教育研究センターでは共同プロジェクトとして、5月に本格的なIT支援型協調学習教室、駒場アクティブラーニングスタジオ(KALS)を設置した。

このプロジェクトはアクションプランにある「理想の教養教育の追求」のためのプロジェクトの一つであり、学生がディスカッションやグループワークなどの実践を

通じて自ら課題を発見し、その解決に能動的に取り組むような学習を支援することを目的としている。

設備としては、およそ140平方メートル、40人程度収容できる教室の中に、組み合わせ可能な可動式テーブル、タブレットPC(40台)、PCと連動するインタラクティブガラスボード、キーパッドを利用して学生の反応をリアルタイムに把握するパーソナルレスポンスシステム等を備えており、最先端のアクティブラーニング環境を実現している。



KALS 全景

このKALSの竣工を記念して、7月25日(水)に学内外の関係する方々をお招きして竣工披露式典及び祝賀会が行なわれた。まず竣工披露式典では、永田敬教授(KALS運営委員)による趣旨説明、小島教養学部長の挨拶の後、小宮山総長よりKALSに対する高い期待を示すお言葉を頂き、その後3人の教員によるデモ授業が行なわれた。

デモ授業では、学生の後ろに来賓の方々が集まり、学生が実際にタブレットPCを操作する手元を覗き込むようなシーンも見られ、KALSに対する強い関心を感じさせた。また、式典終了後も来賓の方々が関係する教員と話しこんだり、タブレットPCを自分で操作してみたりする姿がみられた。

引き続き行なわれた祝賀会では、レノボ・ジャパン株式会社執行役員の石田聡子様、森ビル株式会社プロパティマネジメント本部の角田朋哉様より、KALS竣工に対する祝意とともにこれからの教養教育の一層の発展を期待するとのお言葉を頂いた。

KALSの竣工にいたるまでの関係者の皆様のご支援に御礼申し上げるとともに、理想の教養教育の追及のため



デモ講義に聞き入る来賓の方々

に引き続きご支援をお願いしたい。



タブレットPCを操作する学生達

先端科学技術研究センター

先端科学技術で支える大学進学

部局

7月25日(水)～29日(日)、北海道から九州まで全国から選抜された12名の障害のある高校生が駒場の先端科学技術研究センターに集まりました。大学入学にはどのような準備が必要かを様々な障害のある仲間とともに専門家から学ぶDO-IT Japanプログラムに参加するためです。障害のある高校生が大学に進学するのは、学習上のハンディだけでなく、受験や一人暮らしへの不安など多くの障壁が存在します。日本の大学には約5,000人の高校生が学んでいると報告されていますが、米国の大学の障害学生数200万人という数字に比較すればいかに小さな数字かが分かります。アメリカでは大学が提供する合理的な配慮(Reasonable Accommodation)や障害のある高校生を支援するプログラムの充実がその数字を押し上げてきたと考えられます。DO-IT(Disability, Opportunity, Internet, and Technology)プログラムは、米国ワシントン大学で15年前から始まったプログラムで、その名のごとく、ICT(情報通信技術)を活用してそのバリアを下げていこうという試みです。今回、先端研のバリアフリー分野が中心となり、広島大学、香川大学、愛媛大学、日本福祉大学、早稲田大学の教員・学生、マイクロソフト、富士通、ソフトバンク、京王プラザホ



小宮山宏総長と談話する高校生

テル、トヨタレンタリース東京といった企業の協力を得て開催することができました。

オープニングレセプションの小宮山宏総長の挨拶、池田信雄教授(総合文化研究科)の「ドイツ語の素晴らしさ」、児玉龍彦教授(先端研)の「遺伝子とはなにか～ヒトゲノム解読からわかってきたこと～」といった講義、井野秀一准教授(先端研)の研究室見学、マイクロソフト社の見学とDarren Huston社長主催のランチパーティ、自立生活に関する専門家からの助言、ホテルに帰っての仲間同士のミーティングなど、沢山で刺激的なプログラムを体験し、最終日に先端研の福島智准教授から修了証が全員に渡され、5日間のプログラムを終えました。

障害のある高校生が進学する大学を選ぶ際には、バリアフリーな大学だからという理由で進学先を決める高校生が多いのも事実です。しかし、本来、大学は志望学科や学びたい先生の存在で決めるものです。彼らが大学を志望することでこれまでバリアフリーに無関心であった大学も少しずつ動いていくはず。そのことが障害のある学生の大学進学のハードルをさらに下げていくでしょう。DO-ITプログラムに参加した高校生たちには、それぞれの障害を補償するソフトや支援技術が組み込まれたパソコンが貸与されました。今後、オンライン上での友人同士のコミュニケーションやアドバイザーからの助言を受けながら大学進学を目指していきます。

DO-ITに参加した障害のある学生たちが大学進学を果たし、障害のある人や高齢者の立場を広く理解したリーダーとなることで、誰もが生活しやすい社会の構築が進むに違いありません。



福島智准教授から修了証が手渡される



講義を受講する参加者

本部キャリアサポートグループ

平成 19 年度第 1 回学生窓口業務担当者講習会を開催

平成 19 年度第 1 回学生窓口業務担当者講習会が、7 月 26 日（木）に武田ホールにおいて開催された。

本講習会は、学生の窓口業務を担当する職員を対象に、学生の声を受け止め機敏に対処する等、相談窓口の円滑な対応に必要な基礎知識を修得させ、業務能率の向上に資することを目的に実施されたものである。

午前は、福田倫明講師（保健センター）による講義「精神疾患の基礎知識」、午後は亀口憲治教授（学生相談所長）による「学生支援のための協働モデル」、倉光修教授（学生相談所）による「心理療法（カウンセリング）のエッセンス」の講義の後、倉光教授、中島正雄助教（学生相談所）、井野英江臨床心理士（保健センター）による演習が行われ、参加者 41 名は熱心に講習に取り組んでいた。

近年、学生の人間関係の悩みから学習・進路の悩みまで、学生相談の窓口などに寄せられる学生のニーズは質量とも増大し、悩みを持つ学生は一部の特殊な学生ではなくなっている。大学が支援機能を強化することは緊急の課題であり、東京大学アクション・プラン（2005-2008）の中でも、学生相談所、保健センター、ハラスメント相談室など学内の相談窓口の連携強化を図るための学生支援センター（仮称）構想が位置づけられている。

こうした大学の方針を受けて、今年 2 月から学生相談連絡会が設置され、全学の相談窓口の連携体制の整備、窓口業務担当職員の資質の向上等に取り組んでいるが、その一環として、今回初めて、保健センターと学生相談所の協力を得て、本講習会を開催することになったものである。今後とも継続して実施していく予定である。



福田倫明講師による講義「精神疾患の基礎知識」

社会科学研究所

第 3 回 SSJ データアーカイブ優秀論文表彰式行われる

7 月 26 日（木）17 時から、社会科学研究所附属日本社会研究情報センター（以下「社研センター」）会議室（赤

門総合研究棟）において、第 3 回 SSJ（Social Science Japan）データアーカイブ優秀論文表彰式が執り行われた。

この行事は、社研センターが運営する SSJ データアーカイブが提供する社会調査のマイクロデータを分析した 2 次分析に基づく研究論文を審査し優秀論文を表彰するもので、2 次分析の奨励、普及を図ることを目的として、2005 年度に実施が開始されたものである。学部学生、大学院生及び若手研究者（39 歳以下あるいは修士課程修了後 16 年以内を目安とする）を対象としている。

今回の表彰論文には、審査対象となった 24 点の論文の中から、優秀賞（1 点）：山田 憲（ユニヴァーシティ・カレッジ・ロンドン経済学部 博士課程）「Intra-family transfers in Japan : Intergenerational co-residence, distance, and contact, Applied Economics 38」、佳作（3 点）：朝井友紀子（慶應義塾大学大学院経済学研究科博士課程）「日本における初婚のイベントヒストリー分析一周囲の社会経済状況が初婚に及ぼす影響」東京大学社会科学研究所リサーチペーパーシリーズ 37、四方理人（慶應義塾大学大学院経済学研究科 博士課程）「日本における有配偶女性の離職と再就職」慶應義塾大学大学院経済学研究科・商学研究科連携 21 世紀 COE プログラムディスカッションペーパー 2005-029、裴智恵（慶應義塾大学大学院社会学研究科 博士課程、武蔵大学社会学部社会学科 非常勤講師）「共働きで夫はストレスがたまるのか」永井暁子・松田茂樹編『対等な夫婦は幸せか』勁草書房の 4 点が選ばれた。

利用されたデータセットは、それぞれ生命保険文化センター「長寿時代の生活設計（生活者アンケート）」、大阪商業大学・東京大学社会科学研究所「日本版 General Social Surveys 2000-2003」、1995 年 SSM 調査研究会 代表 盛山和夫「1995 年 SSM 調査」、第一生命経済研究所「今後の生活に関するアンケート、2001」であった。

当日は、はじめに SSJ データアーカイブ優秀論文賞審査委員会委員長・仁田道夫教授から審査講評が述べられた後、受賞者への表彰楯及び利用されたデータの寄託機関への感謝楯の授与、小森田社会科学研究所長の祝辞、受賞者並びに利用データ寄託機関からの挨拶と順次滞りなく進められた。

表彰楯を授与された受賞者からは、特に若手研究者として、研究を進めるうえで信頼性の高い調査データを利用できることの重要性と、単独でその機会を持つことの困難性についての感想を含め、それを可能にしてくれた SSJ データアーカイブ及び利用データの寄託機関、また、論文執筆の大きな手助けとなった 2 次分析研究会などへの感謝の念が述べられた。

なお、データの寄託機関への感謝楯の授与は、貴重なデータの提供を通じた若手研究者の育成及び当該研究の振興への貢献に対しお礼の意を表したものである。

また、小森田所長からは、初めて英語論文が受賞したことに触れながら、次の目標として「東アジア社会調査インフラストラクチャー」構築事業を掲げているが、そ

の実現により関連諸国間でのデータの共有がなされ、英語論文で競い合う日があつたであろうとの将来展望を含めた祝辞が述べられた。

表彰式に続いて、ささやかな懇談の席がもうけられ、有意義な意見交換・交流が行われ、本事業の今後の発展を予感させつつの閉会となった。



表彰式記念写真

先端科学技術研究センター
知識融合の場～インテリクチャル・カフェより発信

先端研は知識融合の場として、昨年度より不定期でインテリクチャル・カフェを開催している。これは、分野で細分化された学会等と、広く一般に向けた講演会等との中間的な位置づけをイメージしたもので、ある共通テーマの下、それぞれ異なる専門分野の人々が自由に意見を交わすことを企図している。

参加者は、学術関係者（研究者、大学院生）、科学技術政策・行政担当者、産業界における研究者や実務担当者など、各分野で一定の専門性を有している方としており、同じフロアでスピーカーとオーディエンスの区別無く、高い知的交流の場が創出されることを目指している。

また、あるテーマについて科学技術の側面から論じる一方、経済効果や政策面、外交面からも問題提起するなど、学際性をモットーのひとつに掲げる先端研ならではの企画でもある。なお、「カフェ」と称しているとおり、会議室ではなく昨年先端研に設置された「先端研カフェ」を会場に、茶菓を提供するなどしてリラックスした雰囲気の中、活発な議論が行われるよう工夫している。



近所で評判の焼き菓子とともに

学内広報 1363 号（今号）が配布される前日 9 月 20 日（木）には、第四回（「駒場リサーチキャンパスの地域との連携」（仮））が開催の見込みで、今後は日本におけるインテリクチャル・カフェのモデルとなるべく、いっそうの充実をはかっていきたい。

〔これまでの開催実績〕

第一回「自動車燃料におけるバイオマス資源の利用」（2006 年 11 月 8 日）

第二回「地球温暖化防止と技術開発」（2007 年 5 月 15 日）

第三回「期待される二酸化炭素との付き合い方」（2007 年 7 月 27 日）

地震研究所
一般公開・公開講義を開催

「ERI 地球実験室」をテーマに、8 月 2 日（木）、地震研究所（ERI）は一般公開・公開講義を開催した。研究所 1 号館の一般公開には約 850 名、弥生講堂での公開講義には 320 名の方が来場し、地球全体が研究フィールドともいえる地震研の活動を巡って教職員・院生との交流を楽しんだ。

今年で 16 回目を迎える公開講義では、日本地震学会会長の島崎邦彦教授と、地球電磁気・地球惑星圏学会会長の歌田久司教授が競演。

島崎教授は、「予測が難しい直下型地震」と題し、最近相次いで発生した能登半島地震や中越沖地震等の直下型地震について研究の現状を紹介した。直下型地震の 3 割は発生場所の予測ができないこと、震災に「自分だけは大丈夫」は通用しないこと等の怖い話をやさしい口調で語り、東京でも建物の耐震化が急務であることを訴えた。



ゼラチンを利用したマグマの上昇実験。うまくいくかな

歌田教授は、「電気と磁気で見える地球内部」と題し、電磁気から地球のコアやマントルを調べる研究を紹介した。地震波による方法とは独立な情報が得られるため、地震や火山噴火をもたらす地球内部の活動をより深く理解できる。普段感じないが、コアが作り出す地磁気は太陽から吹き付ける荷電粒子をさえぎるバリアとなって地球の大気や生命を守っているとのことである。

今年の実験がテーマであるだけに、院生が企画した実

展览展示は充実していた。断層にみたてた寒天にたまった力を偏光板を用いて見る実験、ゼラチンを利用したマグマの上昇実験等、9つが披露された。また地下構造を調べる探査車が野外に設置され、デモンストレーションとともに来場者に地下構造探査の原理が詳しく紹介された。

お茶を片手に第一線の研究者が最新の成果を語る「地震カフェ」も大人気。7階ラウンジに約100名の方が詰めかけ、「揺れる関東平野」、「地震波で見つけたマントル深部への水の道」、「地震研での学生生活」等6テーマについて研究者・院生との対話を満喫した。

例年公開講義は安田講堂で行っているが、今夏は改修中のため、農学部弥生講堂で実施した。相次ぐ地震を反映してか弥生講堂は満席となり、講演の様子をビデオ中継した地震研会場でも100名以上の方が聴講した。

一般公開前日には高校生向けの東京大学オープンキャンパスがあったが、地震研でも見学ツアーを設けて約150名を受け入れた。この2日間で1,000名もの方が地震研を訪れたことになる。



公開講義で直下型地震について質問する未来の科学者(?)

気候システム研究センター

気候モデリングに関する4大学連携
バーチャルラボラトリー講習会開かれる

文部科学省特別教育研究経費「地球気候系の診断に関わるバーチャルラボラトリーの形成(以下VLプロジェクトと略)」の第1回講習会を、8月5日(日)から2日間にわたり、NTT北海道セミナーセンター(札幌市中央区)にて実施した。国内各大学機関の大学院生を中心に35名の参加があった。このVLプロジェクトは、地球気候研究に関連する本学気候システム研究センター、東北大学大気海洋変動観測研究センター、千葉大学環境リモートセンシング研究センター、名古屋大学地球循環研究センターが協力して、温暖化等のストレスをうけつつある地球気候を観測とモデリングによって診断しようというもので、全国共同利用施設等の研究センター間の新しい連携研究の試みとして注目されている。

VLプロジェクトでは、全国で行われている様々な気候システムに関する観測結果を気候モデルで解析するこ

とによって現象を理解することが重要な活動項目の1つである。そのために、全国の研究者と学生が気候モデルを利用しやすい環境を作ることが求められている。このような背景のもとにVLプロジェクトが主催する最初の連携講義として「MIROC気候モデルに関する講習会」を実施した。VLプロジェクトでは、今後、4センター持ち回りでこのような連携講義を実施することによって、各センターの得意技を活かした魅力ある教育活動を展開する予定である。

本講習会初日は、モデル班と解析班に分かれて、気候モデルに精通したポスドク級の班長による指導の下に気候モデルの実習を行った。モデル班は、実際に気候モデルをプログラムとして実行するまでを体験し、実際の気候モデルのプログラムコードを見てどのようなシステムであるかを概観した。解析班は、地球温暖化プロジェクトで計算された出力のデータ解析し、最新の温暖化研究の一端に触れた。2日目は、羽角准教授と木本教授が気候モデリングの講義を行った。

90%以上の参加者が「実習も講義もわかりやすかった」と、そして半数以上の参加者が「今後の自身の研究に役に立てられそうである」と、アンケートに回答している。全国の大学院生に気候モデルに触れてもらい、今後の研究に利用してもらえるようにする本講習会の目的は十分に達することができた。

なお、来年度は千葉大学が幹事校となって第2回講習会が実施される予定である。



講習会の様子

大学院総合文化研究科・教養学部

「直島哲学キャンプ」、開催される

教養学部では、8月6日(月)から9日(木)までの4日間、瀬戸内海に浮かぶ直島を舞台に、高校1・2年生を対象とする「16歳のきみたちのための 東京大学直島哲学キャンプ—海と空の間で「人間の場所」について考える」を開催しました(主催は教養学部附属教養教育開発機構・教養教育社会連携(ベネッセコーポレーション)寄付研究部門)。高大連携による高校生への教養教育の実践の一環として企画されたものです。



小林教授のレクチャーに耳を傾ける高校生たち

日本国内の各地だけではなく、海外からの参加も含め22名の高校生が集まりました。講師は小林康夫教授（総合文化研究科）と中島隆博准教授（同）。哲学キャンプとはいえ、哲学の講義を行うことが目的ではなく、「考え、書く」実践の場として計画されたものです。美術館の見学や島の散策なども行われ、多彩なプログラムとなりました。また、ベネッセコーポレーションの福武總一郎会長もレクチャーを担当され、夕食のバーベキューでは高校生たちとの歓談が熱心に行われました。

直島の豊かな自然や現代アートに触れながら、また講師との議論や参加者同士の対話を通じて、高校生たちは、ふだんの学校生活ではなかなか味わうことのできない「純粋に考える」という体験を楽しみました。



海辺での記念写真

エステは国際的な広い視野を有する科学技術者を養成することを目的として、理工農薬系学生のための国際インターンシップを推進しています。ユネスコ等を諮問団体として4千社に及ぶ企業の後援を軸に、世界80余カ国が加盟し、1948年の設立から現在までに30万人近い学生を相互に交換してきました。

本学は日本におけるイアエステ活動の発祥の地です。東京大学イアエステ委員会は学生委員とともに本学における国際インターンシップの活動を、学生の派遣および受け入れによって主体的に進めています。本学は今年度はドイツ、ポーランド、ノルウェー等から18名の研修生を受け入れています。研修期間は個人で異なりますが、多くは7月から9月ごろの2～3ヶ月です。各研修生には、イアエステ学生委員がボランティアとして1名付き、滞在中のサポート等を行っています。

今回開催された歓迎会は、本学工学部の丁友会の協力によって行われました。はじめに下山勲・大学院情報理工学研究科・研究科長に歓迎のご挨拶をいただき、引き続き保立和夫・大学院工学系研究科・副研究科長の音頭により乾杯を行いました。研修生を始め、そのホストファミリーや、受け入れ研究室の関係者等、イアエステ学生委員など総勢71名の方々に参加していただくことができました。ホストファミリーの方々もご家族で参加されたりし、歓迎会はとても盛況でした。研修生、ホストファミリー、大学教職員、学生ボランティアのとても良い交流の場となりました。



にぎやかな歓談の後、最後に皆で記念撮影

キャンパス ニュース



大学院工学系研究科・工学部

東京大学イアエステ研修生 歓迎会

キャンパス

8月3日（金）山上会館にて、本学にイアエステ研修生として来日した学生の歓迎会が行われました。イア

最近、学内に「〇〇機構」だとか、「〇〇ネットワーク」などという新しい組織が次々と誕生しているのをご存知ですか？実はこれらは、総長室が推し進める「知の構造化」の流れを受けて生まれた部局横断的な教育・研究組織なのです。今月からスタートするこのコラムでは、総長室総括委員会（委員長：岡村定矩理事・副学長）の下にある全学的な研究組織を、研究機構等支援グループの職員がインタビュー形式で紹介していきます。

総長室総括委員会とは？

近年の学問の急速な発展、法人化後の大学業務の多様化などを背景に、従来のような部局中心の教育研究では変化に対応するのが難しくなってきました。例えば、複数の部局にまたがる領域横断的な教育研究プロジェクトや、総長の強いリーダーシップの下で全学として推進すべき重要プロジェクト、また、大学として一元的に実施する必要がある環境安全などの業務は部局だけではできません。そのため、2004年度に室、本部、機構、ネットワークといった組織を総長室直轄で設置することになりました。総長室総括委員会は、それらの新しい組織をまとめる、全体の教授会のような役割を担っています。

INTERVIEW

海洋アライアンス機構長 浦環 教授

(生産技術研究所)

記念すべき第1回目のインタビューを受けていただいたのは、海洋アライアンスの機構長、浦環先生です！海洋アライアンスは、2006年1月に発足後、海に関する研究を行う学内研究者のネットワーク作りやシンポジウム開催など、自発的に活動を行ってきました。そして今年、その活動をさらに発展させるため、総長室総括委員会に機構の設置を申請し、7月3日(火)に正式な学内組織として認められました。海洋基本法の施行、海洋政策担当大臣の設置など、「海洋立国」に向けた国の政策も進む今、東大の海洋研究も新たな船出を迎えています。

Q. 海洋アライアンス発足の経緯は？

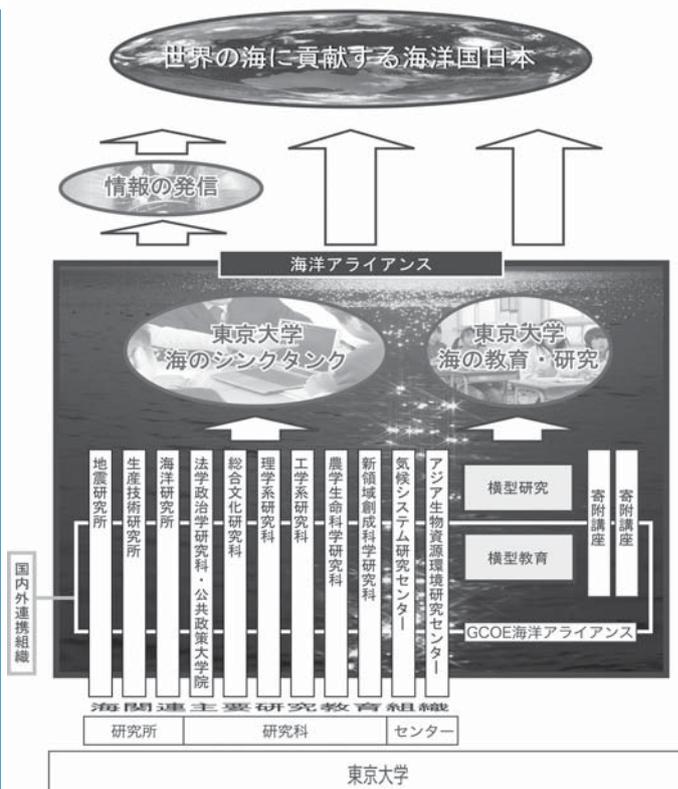
浦 今から2年前、海洋技術フォーラムで海洋についていると議論していました。日本では、海洋の問題について各省庁間で共通の議論がなされていないため、科学技術基本計画に海に視点を置いたプログラムを取り入れること、海洋基本法を成立させることを目標に努力していました。



海洋技術フォーラムは全国的な組織で、東京大学以外に産業技術総合研究所や海洋研究開発機構などがメンバーになっています。それである人から、「君たちは、国の縦割り行政を批判しているが、東大だって専攻に分かれて研究・教育をしていて、ちゃんと横通しができているのかね」ということを言われ、なるほどと思いました。そしてこの言葉に刺激され、東大に横通しのシステムを構築しようと考えて、有志を募ることにしました。学内にどれぐらいの研究者が海に関する研究をしているのかを調べてみたんですが、だいたい200人ぐらいいることがわかったんです。それだけの人がいるいろいろな研究をしているから、その人たちの横通しの組織を作って、海に関する研究・教育を盛り上げて行きたいねということになったわけです。

Q. 今年7月に正式に全学的組織として認められたわけですが？

浦 まず、全学的に認められたということは、東京大学が「海」っていうものが大切であると認識したわけですね。また、東大の200人もの研究者が集まって何らかのアクティビティをやっていくんですよということ学内外に示したことになる。それは日本にとって、とても大きなことだと思います。横につながった、海全体が見渡されるようなネットワークが東大という組織の中にできる。国内でこういうものは他にないんじゃないかと思っています。



海洋アライアンスの活動は3本柱になっていて、シンクタンク的な機能、情報発信、そしてもうひとつが教育です。海っていう幅広い分野を押さえ、全体を見通せるような人材の育成を目指します。それに、海っていうのは世界につながっているから、国際的な感覚や法律の知識が必要です。そういうものを身につけて、国連やIMO(国際海事機関)のような国際機関で活躍できるような人々を育てていくのが横型教育の目標です。

Q. 今後の目標は？

浦 まずは、理科系あるいは工学系の知識を持ちながら国際的な感覚、つまり世界の政治なり法律なりの感覚を持つような人たちが育ってほしいと思います。そのために、そういう人材を育てるようなシステムを作り上げていかなければいけないと思っています。自分の専門は専門としてある。そして、なおかつ幅広く海に関するいろいろなことを理解している人々を育てたいですね。「人を育てる」、それは大学の一番に重要な役目ですから。

(インタビュー：神谷、手塚)

●関連ホームページ●

- 海洋アライアンス <http://www.oa.u-tokyo.ac.jp/>
- 海洋技術フォーラム <http://blog.canpan.info/mt-forum/>
- 海洋基本法 <http://law.e-gov.go.jp/announce/H19HO033.html>

問い合わせ先：本部研究機構等支援グループ（内線21387）
総長室総括委員会HP：<http://www.cirp.u-tokyo.ac.jp>

「さすてなTimes」
第2弾!

サステナな日々

～キャンパスから考えるサステナビリティ～

vol. 1

「不都合な真実」のその後・・・

今年の夏は記録的な猛暑でした。北極の氷も予測以上に溶けたとか。地球温暖化もいよいよ身近な話になってきて、これ以上暑くなったら、仕事も勉強もやられてられないよーと危機感を覚えた方もいらっしゃるのでは？

サステナビリティ学連携研究機構 (IR3S) は、東京大学地球持続戦略研究イニシアティブ (TIGS) ・東京大学AGSとの共催で、今年6月に映画「不都合な真実」(出演: アル・ゴア元アメリカ副大統領) の上映会を安田講堂で行いました。参加してくださった大勢の皆さん、ありがとうございました。その後、温暖化対策として何か新しいことを始めてみましたか？

地球温暖化ほどの大きな問題を考えると、自分ひとりぐらいで何をやっても状況は変わらないと思いがちですが、私たちひとりひとりが責任を負わない限り、地球環境の危機は解決できないというのがアル・ゴア氏からのメッセージでした。映画を観た人もそうでない人も、「不都合な真実」が提案している私たちにできる温暖化対策を自分ではできているかどうかチェックしてみてください。全部できている人は東大のサステナくん・サステナさんに認定!

- 映画「不都合な真実」を観て、友人に勧める
- 省エネ型の電化製品や電球に交換する
- お湯を節約する
- 無駄な待機電力を減らす
- 停車中はエンジンを切り、エコ・ドライブをする
- リサイクル製品を積極的に利用する
- 紙を無駄にしないようにしよう
- 水などの飲み物のために、マイボトルを持ち歩く
- 買い物にはマイバックを持参し、過剰包装、レジ袋は断る
- エアコンの設定温度を変え、冷暖房のエネルギーを削減する
- たくさん木を植える
- 環境危機について学び、学んだ知識を行動に移す etc.

→映画「不都合な真実」ホームページ
<http://futsugou.jp/main.htm>

気軽に「みんなでエコレ！」

時代は脳トレでも顔トレでもなく、エコトレ! というわけで、気軽にエコロジーについて賢くなってみませんか？

「みんなでエコレ！」とは、東京大学と環境省の協力によって㈱イマジニアが製作したエコロジー促進モバイルサイトのことです。サイトの内容は、本学の大学院生が中心となって問題を作成した「環境クイズ」(なんと3,000問以上!)を中心に、

アクセス方法

- ▶ **iモード**: メニューリスト⇒働く/住む/学ぶ⇒STUDY/資格⇒みんなでエコレ!
- ▶ **Ezweb**: カテゴリで探す⇒仕事・学習⇒学習⇒みんなでエコレ!
- ▶ **Yahoo! ケータイ**: メニューリスト⇒働く・住む・学ぶ⇒学ぶ⇒みんなでエコレ!
- ▶ **直接URLを入力** <http://eco-t.jp>

サステナ(サステナビリティ; 持続可能性)とは?

環境の世紀と呼ばれる21世紀の科学技術、経済システムを語る最重要のキーワード。地球社会を持続可能なものへと導くビジョンを構築するための基礎となる新しい超学的な学術が「サステナビリティ学」(sustainability science)である。

サステナビリティ学連携研究機構 (IR3S) HPより
<http://www.ir3s.u-tokyo.ac.jp/top.html>

このコラムは、サステナビリティ学を個人の日常生活やキャンパスと結びつけることを目指しています。

サステナミュージアム公開!

世界地図の上にあるアイコンを探してクリックすれば、地球で起きている現象へとひとつとび! あなたの探究心、好奇心をくすぐるサイトが、地球持続戦略研究イニシアティブ (TIGS) のホームページで誕生しました。その名も、「サステナミュージアム」。今は地球館のみですが、今後さらに内容を充実させ、世界各地の情報をおさめた写真館、食文化館など、楽しみながら環境問題や地域文化を学べるサイトとして、更新していく予定です。ユーザーとのインタラクションを大切に、いろいろな方々の意見、また研究者の方々のインプットによって、より充実していくウェブサイトにできればと思っています。早速アクセスを☆ (IR3S特任助教 平松あい)

探究心をくすぐるWEB



→サステナミュージアム
http://www.ir3s.utokyo.ac.jp/tigs/sustaina_museum/

投稿・情報募集

本コラムでは、学内における地球に優しく、人に優しいサステナブルな取り組みや、そういった活動に取り組んでいる団体・個人を紹介していきます。自薦・他薦は問いませんので、「これってサステナかも?」と思うものがありましたら、是非下記アドレスまでご応募ください。

wanted

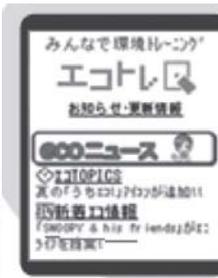
東大の
サステナくん・
サステナさん

→応募先: 研究機構等支援グループ
kikoushien@ml.adm.u-tokyo.ac.jpまで

環境関連のニュースや動画配信などで構成されています。クイズの成績は全国ランキングで確認できるほか、チームを作って競い合うこともできます。さらに、IR3S教授の住先生の解説も付いているので、楽しく環境について学べます。ちなみに情報料は無料なので、是非お試しください!



住先生



環境クイズ

ニュース

コラム・ブログ

チームマイナス6%情報

環境用語辞典

動画コーナー

問い合わせ先: 本部研究機構等支援グループ (内線21387)

平成19年度第1回(通算5回)産学連携協議会産学連携委員会 開催

7部局の産学連携活動報告



写真は会議の様子:部局の発表が終わると、産業界から質問が投げかけられた

7月24日(火)、平成19年度第1回産学連携委員会を本部棟12F会議室で開催しました。出席者は産業界委員14名、東京大学委員16名。藤田本部長から産学連携本部の活動報告を行い、その後、7部局から産学連携に関わる活動(1部局15分)が報告されました。理学系研究科、薬学系研究科、公共政策学連携研究部から現状の報告がありました。新領域創成科学研究科からは柏国際学術研究都市構想として、エコイノベーションプロジェクト、情報理工学系研究科からは、産学連携組織先進研究支援(A R A)プログラム、先端科学技術研究センターからは、企業・先端研の双方が資金を出し合うマッチングファンド形式を取り入れた先端研型産学連携モデルなど、産学連携の新しい試みが紹介されました。

懇親会で活発な意見交換

委員会終了後、多くの産業界委員、東京大学委員の参加のもと、山上会館で懇親会を行いました。乾杯の挨拶をされた味の素株式会社技術特別顧問の西山徹様からは、「本日は大学側の産学連携活動を知るよい機会になった。今後も産学連携委員会を有意義な場として活用して欲しい」とのお言葉を頂きました。

また、新日本製鐵株式会社 先端技術研究所長フェローの橋本操様からは、「産学連携の基礎は相互の理解にある。その意味でお互いに情報発信することが重要。月2回発信の『東京大学産学連携協議会UCRホットライン』など地道な活動が、相互理解のため重要な意味を持つ」とのコメントをいただきました。



山上会館での懇親会の様子

工学系研究科技術経営戦略学専攻と協力して、授業を開始



「産学連携とイノベーション」の講義風景

工学系研究科技術経営戦略学専攻の授業の一つとして「産学連携とイノベーション」の講義を産学連携に関係する教員が今年度から開講しています。その一環として企業の方やベンチャーを実際に始めている先生に講義をしていただく授業形式をとっています。

7月9日(月)に行われた授業では、新領域創成科学研究科の伊藤耕三教授に「高分子架橋の新しい概念と大学発ベンチャー」というテーマで講演していただきました。伊藤教授は、架橋点が自由に動くゲル(環動ゲル)を、世界で最初に見つけました。環動ゲルは、従来のゲルにはない、高い伸びと膨潤性をもち、現在多くの業界から注目を集めています。伊藤教授の講演は、開発から大学発ベンチャー(アドバンスト・ソフトマテリアルズ株式会社:ASM、東京大学アントレプナープラザに入居)の立ち上げ、特許の出願、研究開発費の確保から人材選びまで、大

変興味深い内容でした。講義後半で、学生から多くの質問が出ました。「卒業後にベンチャーを立ち上げたいのですが、経験しておいたほうがいいことはありますか?」との質問に、「うまくいくことばかりではないので、いろいろな失敗や挫折の経験が役に立ちます(苦笑)」と、ご自身の体験を踏まえた真に迫るアドバイスもありました。

講義終了後、伊藤教授にお話を伺うことができました。

取材者 「ご講演、ありがとうございました。伊藤先生のこれからの抱負をお伺いできますか?」

伊藤教授 「今後ますます大学発ベンチャーが増えることを希望しています。ベンチャーを立ち上げるには、時間、体力、資金すべて消耗しますが、自分の研究室で生まれた技術が実用化されるのは大変うれしいことです。東京大学でGoogleのような大学発ベンチャーがたくさん出てきて、キャピタルゲインやライセンスフィーで大学が資金を得る。その資金が基礎研究を促進し、大学発ベンチャーを育てる土台作り役に立てば理想的だと思います。当面の私の希望は、ASMを上場させ、社会に役立つ製品を作る会社にしていくことです」



伊藤耕三教授

連絡先:産学連携本部(産学連携グループ) 電話:内線22857(外線03-5841-2857)

ホームページ:<http://www.ducr.u-tokyo.ac.jp/>

※「東京大学トップページ」上で「産学連携本部」をクリック



第5回は、東大基金の担当理事でもある山田理事にご登場いただきました。高橋理事、西尾理事、そして山田理事と、基金への想いを語っていただきましたが、各基金担当理事の想いがみなさまに伝わればと思います。

東大基金の充実に向けて

理事 山田 興一

東京大学は創立以来130年間日本の代表的な大学として国から支援され、教育研究の蓄積を続けてきました。

これまでは国内で優秀な人材を集め、教育効果を高め、水準の高い研究を進めて数多くの実績を上げてきました。

しかし、情報が瞬時に世界中へ伝達され、人、資金などが最適環境へ向かって移動するグローバル化が進んでいる時代になっています。これまでのやり方で大学運営をしては「時代の先頭に立ち、知の頂点を目指す」ことは難しくなっています。大きな問題の一つは財政的なことです。



第一回総長主催パーティーでの山田理事

日本の大学への教育投資額（対GDP比）は他先進国の1/2程度と低いのですが、現状の国の財政情勢から、それを急増させることは簡単ではありません。大学自らが財政基盤を充実させねばなりません。ここに渉外本部の出番があります。

現在は東京大学に多くの優秀な人材がいて、世界最高水準の研究もしています。この水準をさらに上げて、日本のみならず世界に貢献するためには、欧米、特にアメリカ、イギリスの大学の渉外活動と資産運用方法が参考になります。東大の研究分野では他の真似ではなく自らが新しい課題を設定し知を創造していく状況ですが、渉外活動では先頭に立つ大学に比べて20年程度の遅れがあります。このことは、その遅れを短期間に取り戻すために参考になるモデルがあることを意味しています。

アメリカではハーバード大の3兆円、イエール大の2兆円など、6大学が1兆円以上の基金を有しています。ケンブリッジ大学の基金も9,000億円です。このような状況でも、さらに年間1,000億円くらい基金を積み上げるキャンペーンを続けている大学もあります。基金を増やすためにはこの基金の運用も重要です。イエール大では過去20年間の平均運用利回りは17%の高さです。20年間で元金は23倍にもなります。この運用を20人ほどでこなしています。

東大でもこのような運用ができれば、1,000億円の基金でも、毎年50～100億円使用しつつ、運用益をかなりのスピードで積み上げていくことが可能でしょう。まずこのレベルにすることが必要です。イエール大では200人ほどの渉外職員が1人年間1億円以上の基金を集めています。東大での渉外職員は約20人です。しかし、渉外の人員を増やせば集金額もそれに比例して簡単に上がるものではありません。

東大の使命、教育研究の内容、社会への貢献などと同時に、時代の先頭に立つにふさわしい大学の運営がなされていることを丁寧に社会へ発信することが重要です。その基盤のバロメータの一つと考えられる東大教職員参加率がこの通信欄に載せられています。

教職員の皆様には基金への参加とともに渉外活動の一端を担っていただくことを願っています。そのことにより、基金充実化のスピードも高くなりますし、また、渉外職員の効率的な増員も可能になります。大学全体の地道な努力が基金充実化に結びつくと思っています。

前回の連載からおよそ2ヶ月が経ちましたが、その間にみなさまのご協力のおかげで参加率が20%を超えました！誠にありがとうございます。東大基金のホームページにも、新しく教職員の方専用の申込ページが出来ましたので、こちらもぜひご活用ください！（鈴木）

（教職員専用ページ）

<https://payment.utf.u-tokyo.ac.jp/staff.html>

基金最新情報

5,457件 9,467,177,301円

（内教職員 1,608件）

（8月31日現在申込）

教職員参加率 22.0%

連絡先：渉外本部 鈴木
電話：内線21744（外線03-5841-1744）
HP：<http://utf.u-tokyo.ac.jp/index.html>

※「東京大学トップページ」上で「東京大学基金」をクリック

インタープリターズ・ バイブル

vol.9



科学技術振興調整費新興分野人材育成 科学技術インタープリター養成プログラム

石浦章一

総合文化研究科 准教授
科学技術インタープリター養成プログラム担当

科学を解釈する仕事

科学技術インタープリター養成プログラムの授業の1つを紹介しましょう。

私は普段はちゃんと研究をしていますが、総合文化研究科ではとにかくいろいろな役が回ってくるので、私を駒場から来る暇な先生、物書き(2チャンネルでの学生の書き込み)、高校生講座の講師、オープンキャンパスでの模擬実験屋、声の大きい文系教授がいる会議でどうしても理系から参加しなければいけないときのダルマ役(参加だけしてじっとしている)などと思っている人が多いようです。そうではないことを、プログラムの学生にも知ってもらうために、プログラムでは以下のような授業をしています。

まず、理系の大学院生でNature誌を全頁読んでない人はいないでしょうから、本当はその中から新しい記事を探し出してわかりやすく紹介してほしいのですが、90分の授業時間内では難しいので、英語の記事をその場で与えます。解説記事もありますし、難しい論文のこともあります。もちろん彼らの前に、ネットが使える卓上コンピュータを置いて、その記事をその場で読んで要約してもらいます。

30分以内で読みながら、面白い点は何か、何が新しいのか、それを人に読んでもらうために何を加えて書けばいいのか、あっと驚く書き方はできるか、などの点に注意して書くのです。書いたらすぐに印刷し、全員に配ります。

ここから講評が始まります。同じ記事を書いても学生によって多種多様になります。実験手法に興味がある人、結果の社会性に重点を置く人、それぞれです。高校生用に、仲間用に、そして一般人向けに、というように標的を変えて書くこともあります。しかし何度か書き直し、書き慣れてくるとかなり上手になるものです。

受講生の書いたものを見たくありませんか？
<http://park.its.u-tokyo.ac.jp/agc/interpreter/interpretermain.html> へどうぞ。

★科学技術インタープリター養成プログラム

URL:<http://park.its.u-tokyo.ac.jp/STITP/>

コミュニケーションセンターだより No.39

■2007年度オープンキャンパス結果報告

いよいよ秋の気配が漂ってまいりましたね。
夏真っ盛り8月1日、2日に行われた
「オープンキャンパス」の結果をご報告致します。

<オープンキャンパス 売上ベスト5>

1位	シャープペンシル
2位	ポストカード
3位	チャーム付ストラップ
4位	ボールペン
5位	天体クリアファイル



チャーム付ストラップ
価格：1,470円(税込)

本郷キャンパスではやはり日常で使えるシャープペンシルが大変な人気でした。店内大変な混雑でした。高校生の熱気はすごいです！！

駒場キャンパスでは、テントでの出店でしたが炎天下、UTCCスタッフに質問をしながら真剣に商品を選んでいる高校生達が印象的でした。

注目商品！！

ランキング3位のチャーム付きストラップ！！
発売以来特に高校生に大人気です！！

■お品切れのお詫びとご報告

開店以来ご好評頂いておりますシャープペンシルですが、リニューアル準備のため、現在お品切れとなっております。また、ボールペンも同様の理由で近日お品切れとなります。素敵な新商品を発売すべく準備をしておりますので、しばしお待ち下さいませ。今までご愛用頂いたみなさまありがとうございました。



シャープペンシル・ボールペン
価格：525円(税込)

(担当：コミュニケーションセンター 吉岡)



The University of Tokyo

東京大学コミュニケーションセンター
The University of Tokyo
Communication Center

OPEN：月曜～土曜 10：30～18：30
電話：03-5841-1039
<http://www.utcc.pr.u-tokyo.ac.jp>

ワタシのオシゴト / 第19回

Rings around the UT

財務戦略グループ予算チーム
和田あきのさん

新しい仕事を体感中

東大に採用されてからもうすぐ丸5年になります。現在の部署には今年の4月に異動してきました。事務は法人化を機に新しい仕事内容へと変化している最中ですが、予算チームでは、国への概算要求や学内予算の配分をはじめ、戦略的な資金獲得、効率的な予算運用等々を目指し日々皆で努力しています。

4月に来たばかりで初心者の私ですが、「戦略的」を実現する為にまずは情報収集・データ分析だ、ということで、大量のデータをすっきり処理してスマートでわかりやすい資料作成を目指し、こつこつ頑張っています。データの多さにパソコンもフリーズしながらの地道な作業もありますが、けっこうおもしろかったりします。他にも色々な仕事があります。部局の方や先生方、文科省等と関わることも多くありますし、大学の教育研究を身近に感じる機会も多く、大学の一員として仕事をしながら自分もより成長できたらいいなあ、と思う今日このごろです。



いつも明るい職場です



中央の缶は流行のマンゴー缶です

出身地: 神奈川県

自分の性格: のんびり好きだけどせっかち。

血液型: A型

次回執筆者のご指名: 西條栄子さん

次回執筆者との関係: 以前、英会話研修で一緒のクラスでした。

一言紹介: 技術職の方です。どんなお仕事なのか私も興味あるので、お願いします〜。

噴水

教育学部附属中等教育学校で、
1年生総合学習発表会が行われる

本校に入学したばかりの1年生にとって、初めての総合学習「東大研究」発表会が5月24日(木)におこなわれた。70名ほどの保護者の方にも子どもたちの学習の成果を見ていただいた。

「東大研究」は4人一組になり、この日まで約1ヶ月半をかけておこなった。4月20日(金)には、東京大学本郷キャンパスを探検した。初めて訪れる生徒が多く、東京大学の広さと大きな建物に圧倒されていた。守衛さんや学生さん、食堂の方に直接インタビューする班もあった。

学校に戻って、実際に現地で調べたことや書籍、WEBサイトで調べたことをもとにA3版の新聞の作成に取り組んだ。「班のメンバーで協力することの大切さが分かった。1人ではここまでやれないと実感した。決められた時間で、自分の調べたことを伝えるのはとても難しいと思った」「班の中でみんなで話し合っって1つの新聞にまとめるということは、難しかったけれどみんなに分かってもらえるいい発表ができてよかった。」「東大研究は、自分で調べにでかけたり、皆と話し合ったことをまとめたりといろいろな経験をすることができ、自分自身とても成長することができた活動だった。」と生徒は感想を述べている。



はじめての発表をする1年生たち

INFORMATION

シンポジウム・講演会

シンポジウム・講演会

人工物工学研究センター

創立 130 周年記念事業・国際会議「デザインの科学—創ることと分かることの本質を探る—」公開コロキウム

人工物工学研究センターでは、9月29日(土)に国際会議「デザインの科学—創ることと分かることの本質を探る—」の公開コロキウムを開催いたします。「持続性とデザイン」「芸術と認知」「経営と価値」に関する議論を深めるとともに、「創出」と「理解」という人間の本質行為の学としての、「デザインの科学」を論究し、持続可能社会構築と新たな社会的価値創出へ向けたメッセージの発信を目的としています。

日時：9月29日(土) 13:00～18:30(開場 12:30)

場所：本郷キャンパス 鉄門記念講堂
(医学系研究科教育研究棟 14 階)

参加費：無料

プログラム(同時通訳付き)：

■はじめに

挨拶 小宮山宏(本学総長)

開催趣旨説明 上田完次(人工物工学研究センター長)

■講演 1：持続性とデザイン

13:15 一般設計学と持続性

吉川弘之(産業技術総合研究所理事長)

13:40 環境とデザイン

J. Lubchnenco(国際科学会議前会長)

14:05 上記 2 講演へのコメント

岩田修一(本学新領域創成科学研究科教授)

■講演 2：芸術と認知

14:15 脳と創出性

E. Poeppel(ミュンヘン大学医学心理学研究所長)

14:40 照明とデザイン

石井幹子(照明デザイナー)

15:05 上記 2 講演へのコメント

三宅美博(東京工業大学総合理工学研究科准教授)

■講演 3：経営と価値

15:15 価値の共創

V. Ramaswamy(ミシガン大学 MBA 教授)

15:40 組織とイノベーション

出井伸之(ソニー前最高顧問)

16:05 上記 2 講演へのコメント

馬場靖憲(本学工学系研究科教授)

■16:15～16:35 休憩

■パネル討論

16:35 ワークショップ報告

上田完次(本学人工物工学研究センター長)

16:50 パネリストによる総合討論

■おわりに

18:25 閉会とまとめ(上田完次)

☆18:45～20:00 懇親会(会費 2,000 円)

参加申込：下記サイトからお申し込み下さい。

<http://www.race.u-tokyo.ac.jp/DESIGN/>

連絡先：人工物工学研究センター内

「デザインの科学」事務局

E-mail: s-design@race.u-tokyo.ac.jp

共催：人工物工学研究センター、財団法人林原共済会

協賛：毎日新聞社

シンポジウム・講演会

ナノバイオ・インテグレーション研究拠点

Swiss-Japan NanoBio Symposium

CNBI(Center for NanoBio Integration)では下記のようにスイス連邦工科大学と合同でシンポジウムを開催いたします。

日時：10月10日(水)～11日(木)

場所：浅野キャンパス 武田先端知ビル・武田ホール

構成：Session 1：Interface for Nanobio

Session 2：Therapy

Session 3：Sensing in Micro and Nano Space

開催趣旨：スイス連邦工科大学【チューリッヒ校(ETH)、ローザンヌ校(EPFL)】は、ナノバイオ分野の研究を積極的に展開し、この分野でのヨーロッパにおける中心的な存在となっています。CNBIはこのスイス連邦工科大学をヨーロッパにおける連携の主要機関として位置づけ、今後、学術交流をはじめとした相互の協力

関係を強化しようとしています。本シンポジウムはその一環として開催し、それぞれの機関の研究者が集い、研究成果について国際的視野での研究者間の情報交換を行い、互いの発展を図ります。なお、このシンポジウムは公開で、詳細および参加申し込みについては、下記のURLをご覧ください。

URL

<http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/CNBI/whatsnew/071010swiss.html>

<講演者 (スイス) >

Prof. Marcus Textor (ETH)

Prof. Harm-Anton Klok (EPFL)

Prof. Wolfgang Meier (Univ. Basel)

Prof. Matthias P. Lutolf (EPFL)

Prof. Horst Vogel (EPFL)

Prof. Jeffrey Alan Hubbell (EPFL)

<講演者 (CNBI) >

石原一彦 教授

上田 宏 教授

牛田多加志 教授

片岡一則 教授

加藤 大 特任准教授

狩野光伸 特任助教

鄭 雄一 教授

堀池靖浩 プロジェクトマネージャー

宮原裕二 教授

シンポジウム・講演会

分子細胞生物学研究所

「分生研シンポジウム・膜輸送体の構造生物学」のご案内

(財) 応用微生物学研究奨励会の設立 50 周年と、本学創立 130 周年を記念する本年度の分生研シンポジウムでは、最近目覚ましい進歩を見せている膜輸送体の構造生物学に焦点を絞り、構造と機能の連関を深く理解することを目指している。

MacKinnon 教授 (ノーベル賞受賞者) を始めとする世界の第一線の研究者が講演する。

日時: 10 月 11 日 (木)

場所: 一橋記念講堂 (学術総合研究センター内)

www.nii.ac.jp/map/hitotsubashi-j.html

プログラム

10:30 ~ 10:40 所長挨拶 宮島 篤

10:40 ~ 11:20 Structure and function of bacterial lipoprotein transport system

徳田 元 (本学、分生研)

11:20 ~ 12:00 Structure and mechanism of ATP-binding cassette (ABC) transporters
Kaspar P. Locher (ETH Zurich)

13:20 ~ 13:50 Structural basis for gating mechanism of magnesium transporter
濡木 理 (東京工業大学、生命理工)

13:50 ~ 14:40 Architecture and mechanism at chemical synapses
Eric Gouaux (Oregon Health and Science Univ.)

14:40 ~ 15:20 Structural aspects of drug recognition and transport by bacterial multidrug efflux transporter
村上 聡 (大阪大学、産研)

15:50 ~ 16:40 Potassium channels
Roderick MacKinnon (Rockefeller Univ.)

16:40 ~ 17:20 Structural basis of ion pumping by Ca²⁺-ATPase
豊島 近 (本学、分生研)

参加費: 無料

連絡先: 東京都文京区弥生 1 - 1 - 1

東京大学分子細胞生物学研究所

豊島 近 (tel) 03-5841-8492

(E-mail) ct@iam.u-tokyo.ac.jp

徳田 元 (tel) 03-5841-7830

(E-mail) htokuda@iam.u-tokyo.ac.jp

シンポジウム・講演会

21COE プログラム、大学院工学系研究科・工学部

Dr. Amory B. Lovins 講演会開催のお知らせ

東京大学ホロニック・エネルギーシステム学寄附講座 (東京ガス) と 21 世紀 COE プログラム「機械システム・イノベーション」は、10 月 17 日 (水)、ロッキー・マウンテン研究所エイモリ・ロビンス所長をお招きし、講演会を開催いたします。この講演会ではロビンス所長に、エネルギー消費機器、建物、産業プロセス、輸送用のあらゆる需要分野の徹底した省エネルギーを系統的に実現する方法と最良事例を論じ、わが国の隠された省エネルギーポテンシャルを引き出す可能性について講演いただき、参加者との討論を通じて明らかにしたいと考えています。広く産官学から、省エネルギー技術にご関心の方々の参加を歓迎いたします。

講演テーマ: Advanced Design Integration for Radical Energy Efficiency

(抜本的なエネルギー効率化のための統合

的なデザイン)

主催: 東京大学ホロニック・エネルギーシステム学 (東京ガス) 寄附講座
東京大学 21 世紀 COE プログラム「機械システム・イノベーション」

協賛: エネルギー・資源学会、省エネルギーセンター
日時: 10 月 17 日 (水) 18:30 ~ 20:00 (開場 18:00)
場所: 武田先端知ビル・武田ホール
http://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/cam01_04_16_j.html

言語: 英語
参加費: 無料

詳細は当講座のホームページをご覧ください。
<http://www.hes.t.u-tokyo.ac.jp/topics/lecture-amory.html> (講演会の情報)
現在ホームページ上におきまして事前登録を受け付けております。

事務局: 東京大学大学院工学系研究科機械工学専攻
ホロニック・エネルギーシステム学 (東京ガス) 寄附講座 坂東 茂
〒113-8656 東京都文京区本郷 7-3-1
TEL: 03-5841-1680 FAX: 03-5841-6372
E-Mail: bando@mech.t.u-tokyo.ac.jp

シンポジウム・講演会

先端科学技術研究センター

設立 20 周年記念シンポジウム開催のお知らせ

先端研は、2007 年 5 月 21 日に設立 20 周年を迎えました。そこで、20 年を記念して刊行予定の先端研 20 年史のお披露目とともに下記のとおり、シンポジウムを開催いたします。20 年にわたって「先端」を冠してきた先端研の今、そしてこれからについて、内外からのゲストを迎えてお話いただきます。皆様の参加を心からお待ちしています。

日時: 10 月 18 日 (木) 13:30 ~ 18:30
場所: 先端研 4 号館 2 階講堂 ほか
詳細: <http://www.rcast.u-tokyo.ac.jp/ja/>
問合せ: 先端研 経営戦略企画室広報担当
E-mail: communication@rcast.u-tokyo.ac.jp
プログラム (敬称略):
13:30~13:45 ご挨拶 宮野健次郎 (先端研所長)
13:45~13:55 ご祝辞 徳永保 (文部科学省研究振興局局長)
13:55~14:05 ご祝辞 西尾茂文 (理事・副学長)

14:05~15:05 基調講演 山崎正和 (劇作家・中央教育審議会会長)
15:05~15:25 コーヒーブレイク
15:25~16:25 先端研の研究紹介
16:30~18:30 パネルディスカッション
「今、先端研は？」(仮)
パネリスト (敬称略・五十音順)
最相葉月 (ノンフィクションライター)
中小路久美代 (先端研特任教授)
中島秀人 (東京工業大学准教授)
藤垣裕子 (教養学部教授)
渡邊克己 (先端研准教授)
モデレータ
御厨貴 (先端研教授)

※プログラムは変更になる可能性があります。あらかじめご了承ください。

シンポジウム・講演会

国際連携本部

ASNET 主催・東京大学シンポジウム 「アジアと語る希望・幸福」

本学 ASNET (日本・アジアに関する教育研究ネットワーク) が国際シンポジウムを開催します。学内外から分野を超えたさまざまな研究者と文化人を招いて、アジアの希望と幸福についての講演と議論を 2 日間行います。多くの方のご来場をお待ちしています。

東京大学シンポジウム「アジアと語る希望・幸福」

【第 1 日】
11 月 3 日 (土・祝) 13:00 ~ 17:30
会場: 武田先端知ビル・武田ホール
趣旨説明 丘山新 (東洋文化研究所)
セッション「希望」
講演: 玄田有史 (社会科学研究所)
講演: Yingying Chen (中国・中国社会科学院)
司会: 末廣昭 (社会科学研究所)
セッション「生命」
講演: 徳永勝士 (大学院医学系研究科)
講演: Winyou Mitarnun (タイ・ソクラ王子大学)
司会: 渡辺知保 (大学院医学系研究科)
【第 2 日】
11 月 4 日 (日) 10:00 ~ 16:40
会場: 弥生講堂・一条ホール

開会の挨拶 高橋宏志 (理事・副学長)

東京大学 ASNET について 羽田正 (東洋文化研究所・ASNET 推進室長)

セッション「幸福1」

講演：秋吉敏子 (ジャズピアニスト)
講演：島蘭進 (大学院人文社会系研究科)
司会：丘山新 (東洋文化研究所)

セッション「幸福2」

講演：竹宮恵子 (漫画家)
講演：Popo Danes (インドネシア・建築家)
司会：白石さや (大学院教育学研究科)

セッション「サステナビリティ」

講演：沖大幹 (生産技術研究所)
講演：Shu Geng (米・カリフォルニア大学デビス)
司会：福士謙介 (地球持続戦略研究イニシアティブ)

事前登録制

<http://www.asnet.dir.u-tokyo.ac.jp/dahh/index.html>

お問い合わせ

本学 国際連携本部 ASNET 推進室
TEL：03-5841-1682
E-mail：asnet@asnet.dir.u-tokyo.ac.jp

主催：本学 ASNET (日本・アジアに関する教育研究ネットワーク)

助成：本学基金、社団法人 東京倶楽部 (申請中)



シンポジウムのロゴ (東文研・河村久仁子さんデザイン)



「アジアと語る希望・幸福」ポスター

募集

募集

大学院人文社会系研究科・文学部

平成 20 (2008) 年度大学院人文社会系研究科入学試験日程を発表

9月3日(月)から「平成20(2008)年度大学院人文社会系研究科修士課程及び博士課程学生募集要項」の配布を開始しました。日程は以下のとおりです。

【修士課程】

筆記試験(第一次試験) 平成20年1月26日(土)
口述試験(第二次試験) 平成20年2月13日(水)
※文化資源学研究専攻及び韓国朝鮮文化研究専攻の口述試験(第二次試験)については、2月12日(火)に行います。
※文化資源学研究専攻については、社会人特別選抜での受入れ(日本人のみ)も行っています。

【博士課程】

第一次選考 論文審査等(専門分野によっては学力試験を実施)
第二次選考(口述) 平成20年2月15日(金)
※文化資源学研究専攻及び韓国朝鮮文化研究専攻の第二次選考(口述)については、2月14日(木)に行います。
※文化資源学研究専攻については、社会人特別選抜での受入れ(日本人のみ)も行っています。

また、出願期間は以下のとおりです。

【修士課程】

平成19年10月22日(月)～10月26日(金)
(郵送のみ受付。26日(金)17:00必着。)

【博士課程】

平成19年12月5日(水)～12月11日(火)
(直接持参又は郵送。11日(火)15:00必着。)

募集要項の郵送を希望する者は、封筒の表に「○○課程学生募集要項請求」と朱書きし、郵便番号・住所・氏名を明記して、200円分(修・博等2部必要な場合は240円分)の切手を添付した返信用封筒(角型2号)を同封し、以下へ送付してください。

〒113-0033

東京都文京区本郷7丁目3番1号
東京大学大学院人文社会系研究科 事務部

連絡先：電話 03-5841-3710,3712 (大学院係)

募集

総括プロジェクト機構

学内研究連携ユニットの募集について

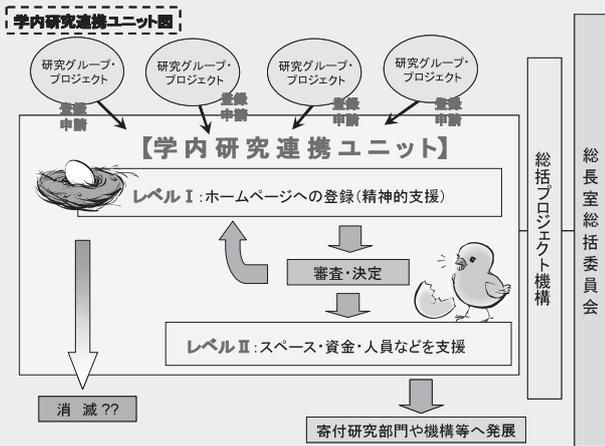
小宮山総長の強いリーダーシップにより設置された総括プロジェクト機構では、これまで学術統合化プロジェクト(ヒト・地球)、領域創成プロジェクトに加え、寄付研究部門(3部門)により、さまざまな教育研究活動が展開されてきました。そして今年7月、部局を超えた多様な研究の連携やネットワーク形成を促進するための枠組みとして「学内研究連携ユニット」が新たに誕生しました。学内研究連携ユニットは、文科系・理科系を問わず、学内において萌芽的、あるいは潜在的に連携が可能な分野における研究連携を全学的に支援することを目指しています。具体的な支援レベルは以下の通りです。

レベルⅠ：名前を登録し、ホームページに掲載

裾野を広げるために、登録の要件を厳格には定めず、総長室総括委員会への届け出のみで登録可能。届け出のあった研究グループ、プロジェクトを「東京大学○○研究連携ユニット」として登録し、総括プロジェクト機構のホームページに掲載する。

レベルⅡ：スペース、資金、人員などを支援

レベルⅠの研究連携ユニットのうち、発展して一定の要件を満たすと学術企画調整室が認めたものについては、大学として必要な研究スペース、資金、人員などを支援する。研究スペースの配分は、キャンパス計画室において別途審議する。外部資金が得られた場合、総長室総括委員会の審議を経て、寄付研究部門や機構等に発展することも可能。



1. 応募方法

学内研究連携ユニットに登録を希望する方は、申請書(下記 URL よりダウンロード)に記入の上、代表者の所属部局事務を通じて、研究推進系研究機構等支援グループまで提出して下さい。

2. 応募にあつての留意事項：

- (1) 申請は随時受け付けます。
- (2) 個人での登録はできません。グループ、プロジェクト単位での申請を受け付けます。
- (3) 申請にあたっては、登録希望のユニットの概要についてホームページを立ち上げてください。申請受付後、総括プロジェクト機構のホームページからリンクを貼る予定です。
- (4) レベルⅡとしての要件等は総長室総括委員会にて検討中です。レベルⅡへ申請を希望される場合は、申請書様式「その他特記事項」にその旨ご記入願います。

◎募集要項等は、下記 URL にありますので、各自ダウンロードをお願いいたします。

<http://www.adm.u-tokyo.ac.jp/res/res5/top-unit.html>
(後日、総括プロジェクト機構ホームページ内に移行する予定です。 <http://www.dpc.u-tokyo.ac.jp/project/>)

【提出先及びお問い合わせ先】

本部研究機構等支援グループ

担 当：手塚・神谷

内 線：21387

E-mail：kikoushien@adm.u-tokyo.ac.jp

お知らせ

お知らせ

本部入試グループ

各種選抜要項・募集要項等の配付のお知らせ

「平成 20 年度入学者選抜要項」及び「大学案内 2008」の配付が始まる

「平成 20 年度東京大学入学者選抜要項」が決定し、各都道府県教育委員会等に通知するとともに7月25日(水)から、本郷キャンパス【正門、赤門、広報センター(龍岡門)、コミュニケーションセンター(赤門脇)、東大生協(安田講堂売店、書籍部)、農学部正門】、駒場Ⅰキャンパス【正門、コミュニケーションプラザ北館1階生協購売部】で配付を開始した。また、「大学案内」についても、2008年度版の配付を同様に開始した。なお、本学ホームページ、テレメールからも請求することができる。入学者選抜の実施教科・科目等は別表1・2・3のとおりである。

「平成 20 年度外国学校卒業学生募集要項」の配付が始まる

「平成 20 年度東京大学外国学校卒業学生募集要項」が決定し、7月2日(月)から入学志願者に対し、本郷キャンパス【正門、赤門、広報センター(龍岡門)】、駒場Ⅰキャンパス【正門】で配付を開始した。また、本学ホームページ、テレメールからも請求することができる。なお、募集人員、出願資格、選抜方法、出願期間、選抜期日など、特別選考の概要は別表4のとおりである。

「平成 20 年度大学入試センター試験受験案内」の配付が始まる

「平成 20 年度大学入試センター試験受験案内」の配付が9月3日(月)から全国の国公立大学等で一斉に始まった。「受験案内」は、国公立大学又は大学入試センター試験を利用している私立大学で入手できる。また、大学入試センターのホームページ、テレメールからも請求することができる。なお、本学では本郷キャンパス【正門、赤門、広報センター(龍岡門)、コミュニケーションセンター(赤門脇)、東大生協(安田講堂売店、書籍部)、農学部正門】、駒場Ⅰキャンパス【正門、コミュニケーションプラザ北館1階生協購売部】で配付している。

別表 1

平成 20 年度 東京大学入学選抜前期日程試験等の実施教科・科目等について（文科各類）

学部・学科等名 及び募集人員等 平成 19 年度 志願倍率	学力検査等の 区分・日程	大学入試センター試験の利用教科・科目名・注 1			個別学力検査等（第 2 次学力試験）			大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等					特別の選 抜方法等	その他	
		教科	科目名等	科目等	教科等	科目名等	科目等	試験の区分	国語	地歴	公民	数学			理科
文科一類 4.0 401 人 前期 その他 若干	2月 25・ 26 日	国語 世 A, 世 B, 日 A, 日 B, 地理 A, 地理 B から 1 地歴 現社, 倫, 政経 から 1 公民 教 I・教 A 教 II・教 B, 工, 簿・会, 情報 から 1 理科 物 I, 化 I, 生 I, 地学 I から 1 英, 独, 仏, 中, 韓 から 1 [6 教科 7 科目]	国語 世 A, 世 B, 日 A, 日 B, 地理 A, 地理 B から 1 地歴 現社, 倫, 政経 から 1 公民 教 I・教 A 教 II・教 B, 工, 簿・会, 情報 から 1 理科 物 I, 化 I, 生 I, 地学 I から 1 英, 独, 仏, 中, 韓 から 1 [6 教科 7 科目]	国語総合・国語表現 I・現代文・古典 数 I・教 II・教 A・教 B 日 B, 世 B, 地理 B から 2 英 (英 I・英 II・リーディング), 独, 仏, 中から 1	センター試験	200	100	100	200	100	200	100	200	900	婦女子女 外国人 追加合格
文科二類 3.3 353 人 前期 その他 若干	2月 25・ 26 日	国語 世 A, 世 B, 日 A, 日 B, 地理 A, 地理 B から 1 地歴 現社, 倫, 政経 から 1 公民 教 I・教 A 教 II・教 B, 工, 簿・会, 情報 から 1 理科 物 I, 化 I, 生 I, 地学 I から 1 英, 独, 仏, 中, 韓 から 1 [6 教科 7 科目]	国語 世 A, 世 B, 日 A, 日 B, 地理 A, 地理 B から 1 地歴 現社, 倫, 政経 から 1 公民 教 I・教 A 教 II・教 B, 工, 簿・会, 情報 から 1 理科 物 I, 化 I, 生 I, 地学 I から 1 英, 独, 仏, 中, 韓 から 1 [6 教科 7 科目]	国語総合・国語表現 I・現代文・古典 数 I・教 II・教 A・教 B 日 B, 世 B, 地理 B から 2 英 (英 I・英 II・リーディング), 独, 仏, 中から 1	センター試験	200	100	100	200	100	200	100	200	900	婦女子女 外国人 追加合格
文科三類 3.7 469 人 前期 その他 若干	2月 25・ 26 日	国語 世 A, 世 B, 日 A, 日 B, 地理 A, 地理 B から 1 地歴 現社, 倫, 政経 から 1 公民 教 I・教 A 教 II・教 B, 工, 簿・会, 情報 から 1 理科 物 I, 化 I, 生 I, 地学 I から 1 英, 独, 仏, 中, 韓 から 1 [6 教科 7 科目]	国語 世 A, 世 B, 日 A, 日 B, 地理 A, 地理 B から 1 地歴 現社, 倫, 政経 から 1 公民 教 I・教 A 教 II・教 B, 工, 簿・会, 情報 から 1 理科 物 I, 化 I, 生 I, 地学 I から 1 英, 独, 仏, 中, 韓 から 1 [6 教科 7 科目]	国語総合・国語表現 I・現代文・古典 数 I・教 II・教 A・教 B 日 B, 世 B, 地理 B から 2 英 (英 I・英 II・リーディング), 独, 仏, 中から 1	センター試験	200	100	100	200	100	200	100	200	900	婦女子女 外国人 追加合格

注 1 【大学入試センター試験の利用教科・科目名】欄

(1) 工業数理基礎、簿記・会社、情報関係基礎を選択できる者は、高等学校又は中等教育学校においてこれらの科目を履修した者及び副修学校の高等課程の修了（見込み）者だけである。

(2) 英語のリスニングテストの成績については、利用しない。

注 2 【個別学力検査等】欄

(1) 数学 B の出題範囲は次のとおりである。

数学 B（「数列」，「スフトル」）

(2) 英語試験の一部に関き取り試験を行う。（30分程度）

注 3 【大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等】欄

学力試験の成績の判定は、大学入試センター試験の成績（総得点 900 点を 110 点に換算）と個別学力検査の成績（総得点 440 点）とを総合（550 点満点）して行う。この比率は、大学入試センター試験の成績を「1」、個別学力検査の成績を「4」とする。

別表2

平成20年度 東京大学入学選抜前期日程試験等の実施教科・科目等について（理科各類）

学部・学科等名 及び募集人員等 (平成19年度) (志願倍率)	学力検査等 の区分・日程	大学入試センター試験の利用教科・科目名			個別学力検査等(第2次学力試験)			大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等				特別の選 抜方法等	その他		
		教科	科目名等	教科等	科目名等	2段階 選抜	試験の区分	国語	地歴	公民	数学			理科	外国語
理科一類 2.9 1,108人 前期 その他 若干	2月25・ 26日	国語 世A, 世B, 日A, 日B, 地理A, } から1 地理B 現社, 倫, 政経 公民 教I・教B, 工, 簿, 会, 情報から1 教II・教A 教II・教B, 工, 簿, 会, 情報から2 物I, 化I, 生I, 地学Iから1 英, 独, 仏, 中, 韓から1 ※地歴, 公民を合わせて1教科として扱う。 [5教科7科目]	国語 世A, 世B, 日A, 日B, 地理A, } から1 地理B 現社, 倫, 政経 教I・教B, 工, 簿, 会, 情報から1 物I, 化I, 生I, 地学Iから2 英, 独, 仏, 中, 韓から1 ※地歴, 公民を合わせて1教科として扱う。 [5教科7科目]	国語総合・国語表現I 教I・教II・教III・教A・教B・教C 物I・物II, 化I・化II, 生I・生II, 地学I・地学IIから2 英(英I・英II・リーディング), 独, 仏, 中から1	約2.5倍	センター試験	200	*100	*100	200	**200	200	900	帰国子女 外国人 追加合格	
理科二類 4.0 532人 前期 その他 若干	2月25・ 26日	国語 世A, 世B, 日A, 日B, 地理A, } から1 地理B 現社, 倫, 政経 公民 教I・教B, 工, 簿, 会, 情報から1 物I, 化I, 生I, 地学Iから2 英, 独, 仏, 中, 韓から1 ※地歴, 公民を合わせて1教科として扱う。 [5教科7科目]	国語総合・国語表現I 教I・教II・教III・教A・教B・教C 物I・物II, 化I・化II, 生I・生II, 地学I・地学IIから2 英(英I・英II・リーディング), 独, 仏, 中から1	約3.5倍	センター試験	200	*100	*100	200	**200	200	900	帰国子女 外国人 追加合格		
理科三類 5.1 90人 前期 その他 若干	2月25・ 26日	国語 世A, 世B, 日A, 日B, 地理A, } から1 地理B 現社, 倫, 政経 公民 教I・教B, 工, 簿, 会, 情報から1 物I, 化I, 生I, 地学Iから2 英, 独, 仏, 中, 韓から1 ※地歴, 公民を合わせて1教科として扱う。 [5教科7科目]	国語総合・国語表現I 教I・教II・教III・教A・教B・教C 物I・物II, 化I・化II, 生I・生II, 地学I・地学IIから2 英(英I・英II・リーディング), 独, 仏, 中から1	約4.0倍	センター試験	200	*100	*100	200	**200	200	900	帰国子女 外国人 追加合格		

注1【大学入試センター試験の利用教科・科目名】欄

(1) 工業数理基礎, 簿記・会計, 情報関係基礎を選択できる者は, 高等学校又は中等教育学校においてこれらの科目を履修した者及び専修学校の高等課程の修了(見込み)者だけである。

(2) 英語のリスニングテストの成績については, 利用しない。

注2【個別学力検査等】欄

(1) 英語試験の一部分に聞き取り試験を行う。(30分程度)

(2) 数学B, 数学Cの出題範囲は次のとおりである。

数学B(「数列」, 「ベクトル」), 数学C(「行列とその応用」, 「式と曲線」)

(3) 理科の出題範囲は次のとおりである。

「物理I・物理II」 物理I, 物理II(「力と運動」, 「電気と磁気」, 選択範囲からは「物質と原子」のうち, 原子・分子の運動(熱力学を含む)を指定)

「化学I・化学II」 化学I及び化学IIの「物質の構造と化学平衡」で学ぶことを基礎とする問題を出題する。題材として, 化学IIの「生活と物質」, 「生命と物質」, 「生命と物質」の内容を用いることはあり得る。

「生物I・生物II」 生物I, 生物IIから出題する。生物IIの「生物の分類と進化」, 「生物の集団」の中から出題する場合は, いずれかを履修していない生徒のいることを考慮し, 背景を説明した上で総合問題として出題する, 選択問題にする, などの配慮を行う。

注3【大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等】欄

(1) 学力試験の成績の判定は, 大学入試センター試験の成績(総得点900点を110点に換算)と個別学力検査の成績(総得点440点)とを総合(550満点)して行う。この比率は, 大学入試センター試験の成績を「1」, 個別学力検査の成績を「4」とする。

(2) 配点に*印を付してある教科は, 複数の科目を受験した場合に高得点の科目の成績を合否判定に利用することを表す。

(3) 配点に**印を付してある教科(理科)は2科目受験を要する。

別表3

平成20年度 東京大学入学選抜後期日程試験の実施教科・科目等について〔全科類（理科三類を除く）〕

学部・学科等名 及び募集人員等	学力検査等の 区分・ 日程	大学入試センター試験の利用教科・科目名		注1 科目名等	注2 2段階 選抜 約5.0倍	試験の区分	大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等					注3 点 配 計	特別の選 抜方法等	その他			
		教科	科目				国語	外国語	理科	数学	公民				歴史	総合科目I	総合科目II
100人	3月13日	国語 地理 公民 数学	世A, 世B, 日A, 日B, 地理A, } から1 地理B 理社, 倫, 政経 数I・数A 数II・数B, 工, 簿・会, 情報から1 物I, 化I, 生I, 地学Iから1 英, 独, 仏, 中, 韓から1 ※地理, 公民を合わせて1教科として扱う。 [5教科6科目]	総合科目I 総合科目II 総合科目III	センター試験 個別学力検査	200	*100	*100	200	100	200	100	100	800	追加合格		

注1【大学入試センター試験の利用教科・科目名】欄

(1) 工業数理基礎, 簿記・会計, 情報関係基礎を選択できる者は, 高等学校又は中等教育学校においてこれらの科目を履修した者及び専修学校の高等課程の修了(見込み)者だけである。

(2) 英語についてはリスニングテストの成績をきむ(筆記200点, リスニング50点の合計250点を200点に換算する)。

注2【個別学力検査等】欄

(1) 総合科目Iは, 英語の読解力と記述力を見る(英語読解・記述を通して, 表現力, 構成力などを審査する)。

(2) 総合科目IIは, 事象の解析への数学の応用力を見る(自然や社会のさまざまな事象を数学的に解析することを問う。ここで用いられる数学の知識は高等学校又は中等教育学校における数学I・数学II・数学III・数学A・数学B(数列, ベクトル)・数学C(行列とその応用, 式と曲線)にわたるが, この科目では数学の総合的な応用力を審査する)。

(3) 総合科目IIIは, 文化, 社会, 科学等に関する問題について論述させ, 理解力・思考力・表現力を見る。

注3【大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等】欄

(1) 合格者の判定は, 個別学力検査の結果に基づいて行う。ただし, 判定に必要なある場合は, 大学入試センター試験の成績や調査書を考慮することがある。

(2) *印を付してある教科は, 複数の科目を受験した場合に高得点の科目の成績を合否判定に利用することを表す。

平成 20(2008) 年度 外国学校卒業学生特別選考

東京大学

実施科類	文科一類, 文科二類, 文科三類 理科一類, 理科二類, 理科三類
募集人員	文科一類, 文科二類, 文科三類 } 第1種, 第2種 各若干名 理科一類, 理科二類, 理科三類
出願資格	<p>[第1種] (外国人であって日本国の永住許可を得ていない者) 平成15(2003)年4月1日から平成20(2008)年3月31日までの間に, 次の基礎資格を取得し, かつ, 要件を満たしている者とする。</p> <p>(1) 基礎資格 次のア, イいずれかに該当すること。 ア 外国において, 我が国の学校教育12年に相当する課程の最終学校を修了した者及び修了見込みの者, 又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの 「外国において, 我が国の学校教育12年に相当する課程の最終学校」とは, 地理的, 場所的に外国で, 原則として, その国において制度上正規の学校教育に位置づけられたものであって, 修了により大学への受験資格を得られることを要する。インターナショナルスクールやアメリカンスクール等の出身者については, 本規定によって出願が認められないケースや出願資格の確認等に時間がかかる場合があるので, 早めに照会すること。 イ 文部科学大臣の指定した者 ○ 外国において, スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局が授与する国際バカロレア資格を有する者で18歳に達したもの ○ 外国において, ドイツ連邦共和国の各州において大学入学資格として認められているアビトゥア資格を有する者で18歳に達したもの ○ 外国において, フランス共和国において大学入学資格として認められているバカロレア資格を有する者で18歳に達したもの</p> <p>(2) 要件 次に掲げるすべての要件を満たすこと。 ア 独立行政法人日本学生支援機構が実施する日本留学試験(平成19(2007)年6月, 11月実施のいずれか)の所定の科目をすべて受験すること(日本語・英語いずれの出題言語でも受験可)。所定の科目とは, 文科各類を志望する者は文科系の科目である「日本語」・「総合科目」・「数学(コース1)」, 理科各類を志望する者は理科系の科目である「日本語」・「理科(物理・化学・生物から2科目選択)」・「数学(コース2)」のことである。 注) 数学のコース選択を注意すること。コースの選択を間違えた者は, 第1次選考不合格者とみなすので注意すること。 イ TOEFL (Test of English as a Foreign Language) を受験すること(PBT, CBT, iBTいずれでも可)。なお, 出願期間までにOfficial Score Report又はExaminee's Score Recordが提出できれば, 受験時期は問わない。 ウ 外国の学校に, 原則として, 最終学年を含め継続して1年以上在学し, 原則としてその最終学校を修了すること。</p> <p>[第2種] (日本人及び第1種以外の外国人) 平成18(2006)年4月1日から平成20(2008)年3月31日までの間に, 次の基礎資格を取得し, かつ, 要件を満たしている者とする。</p> <p>(1) 基礎資格 次のア, イいずれかに該当すること。 ア 外国において, 我が国の学校教育12年に相当する課程の最終学校を修了した者及び修了見込みの者, 又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの 「外国において, 我が国の学校教育12年に相当する課程の最終学校」とは, 地理的, 場所的に外国で, 原則として, その国において制度上正規の学校教育に位置づけられたものであって, 修了により大学への受験資格を得られることを要する。インターナショナルスクールやアメリカンスクール等の出身者については, 本規定によって出願が認められないケースや出願資格の確認等に時間がかかる場合があるので, 早めに照会すること。 なお, 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設出身者は出願が認められない。 イ 文部科学大臣の指定した者 ○ 外国において, スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局が授与する国際バカロレア資格を有する者で18歳に達したもの ○ 外国において, ドイツ連邦共和国の各州において大学入学資格として認められているアビトゥア資格を有する者で18歳に達したもの ○ 外国において, フランス共和国において大学入学資格として認められているバカロレア資格を有する者で18歳に達したもの</p> <p>(2) 要件 次の要件を満たしていること。 外国の学校に, 原則として, 最終学年を含め継続して3年以上在学し, その最終学校を修了すること。最終学年の休業等によって書類上の在学期間が3年未満となる場合についても, 3年以上在学したものとみなす場合がある。</p>

<p>選抜方法等</p>	<p>[第1種] (外国人であって日本国の永住許可を得ていない者) (1) 第1次選考 書類選考, 日本留学試験及びTOEFL (Test of English as a Foreign Language) の成績 (2) 第2次選考 小論文, 面接 なお, 小論文については次のとおりである。 [小論文] 2問を課す。 2問とも日本語で解答すること。</p> <p>[第2種] (日本人及び第1種以外の外国人) (1) 第1次選考 書類選考 (2) 第2次選考 小論文, 学力試験, 面接 なお, 小論文及び学力試験の出題教科・科目については次のとおりである。 [小論文] 2問を課す。 第1問は日本語で解答し, 第2問は次の言語のうちからあらかじめ出願の際に届け出たもので解答すること。英語, ドイツ語, フランス語, 中国語, ロシア語, スペイン語, イタリア語, 韓国朝鮮語, アラビア語</p> <p>[学力試験] (文科各類) 外国語 英語 (英I, 英II, リーディング), ドイツ語, フランス語, 中国語から1外国語 ただし, 問題の一部分は, 届け出た外国語に代えて, 英語, ドイツ語, フランス語, 中国語, ロシア語, スペイン語, 韓国朝鮮語のうちから一つを試験場において選択することができる。 ※英語試験の一部分に聞き取り試験を行う。(30分程度)</p> <p>(理科各類) 数学 数I, 数II, 数III, 数A, 数B (数列, ベクトル), 数C (行列とその応用, 式と曲線) 理科 物I・物II, 化I・化II, 生I・生II, 地学I・地学IIから2科目</p>
<p>出願期間</p>	<p>第1種 平成19(2007)年12月3日(月)から12月10日(月)まで 第2種 平成19(2007)年11月1日(木)から11月12日(月)まで</p>
<p>選抜期日</p>	<p>第1種 平成20(2008)年2月25日(月), 3月17日(月) 第2種 平成20(2008)年2月25日(月)・26日(火), 3月17日(月)</p>
<p>合格発表日</p>	<p>平成20(2008)年3月22日(土)</p>
<p>その他</p>	<p>「平成20(2008)年度外国学校卒業学生募集要項」は, 交付中である。 交付場所は本郷キャンパス正門・赤門・広報センター (龍岡門), 駒場Iキャンパス正門である。また, 請求方法は裏表紙参照のこと。</p>

お知らせ

情報基盤センター

“情報探索ガイダンス” 各種コース実施のお知らせ

情報基盤センター図書館電子化部門では、レポート・論文作成や学習・研究に役立つ“情報探索ガイダンス”各種コースを実施します。

本学にご所属であればどなたでも参加できます。

●会場：

本郷キャンパス 総合図書館1階 講習会コーナー
(定員12名 予約不要です。直接ご来場ください。)

●コース概要とスケジュール：

<データベースユーザトレーニング>

特定のデータベースの使い方について、検索実習を交えながら解説します。今回のWeb of Scienceコースでは、8月に公開された新しいインターフェースの特徴についても紹介します。

■ Web of Science (60分)

9/26 (水) 15:00 ~ 16:00

全分野の主要な学術雑誌(約9,000誌)に掲載された論文のデータベースです。通常のキーワードによる検索に加え、引用文献をキーにした検索も可能です。

< Database User Training (English Session) >

■ Web of Science Course (60 minutes)

9/28 (Fri.) 11:00 ~ 12:00

Covers articles published in major academic journals (about 9,000 journals).

In addition to conventional searches by keyword, it provides information on citation inter-connections.

No advance reservation is required.

●問い合わせ：

学術情報リテラシー係

03-5841-2649 (内線: 22649)

literacy@lib.u-tokyo.ac.jp

<http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/training.html>

お知らせ

大学院工学系研究科・工学部

第22回工学部・工学系研究科技術発表会開催のお知らせ

工学部・工学系研究科では、本年度も「技術発表会」を下記のとおり開催いたします。この発表会は技術系職員が職務上で得た技術的知見を発表し討論を行うことによって、相互技術交流を活性化させることを目的としております。是非ご参加下さるようお願い申し上げます。

日時：9月28日(金) 10:00 ~ 17:35

会場：工学部2号館 213 講義室(大講堂)

参加費：無料(懇親会 2,000円)

問い合わせ先：技術発表会実行委員会

2007tse@tse.t.u-tokyo.ac.jp

http://www.ttc.t.u-tokyo.ac.jp/report/present_rep.html

プログラム：

開会挨拶 10:00 ~ 10:15

発表-1 10:15 ~ 11:30

「実験不明廃棄物の分析と処理 2006」 応用化学 栄慎也

「不明試薬、不明廃液中の水銀濃度の測定」

化学システム工学 伊藤葵

「東大本郷構内における環境及び景観について」

建築学 山田文男

発表-2 11:05 ~ 12:05

「建物を流れる電源漏洩(循環)電流の測定とその対策方法」

原子力国際 安本勝

「超音速熱風洞における計測技術および超音速流の可視化技術について」

航空宇宙工学 奥抜竹雄

「垂直配向単層カーボンナノチューブ膜面上への金属蒸着と金属面への接合」

機械工学 渡辺誠

「MALTにおける高エネルギー側マルチファラデーカップの改造」

原子力国際 中野忠一郎

休憩(昼食)

発表-3 12:50 ~ 13:50

「ラジコン操作型・「トロロコ押しロボット」の作製と問題点」

環境海洋工学 吉田二郎

「VPNを用いたネットワークについて」

環境海洋工学 榎本昌一

「来所管理システムの完成に向けて」

原子力 石本光憲

「放射線取扱施設立入用貸与品管理システムの開発」

原子力 津村貴史

発表-4 13:55 ~ 14:40

「学生実験における安全対策」 原子力国際 土屋陽子
「航空宇宙工学における工作室利用案内及び利用ガイド
ンスについて」 航空宇宙工学 奥抜竹雄

「国際規制物資に関する安全教育の考え方」
原子力国際 木村圭志

ポスターセッション・展示 14:45 ~ 15:55

「陰陽同時イオンクロマトグラフィーによる河川水の分
析」 応用化学 藤村一良

「三四郎池底質の元素分析 (PIXE 法) から環境問題を
考える」 原子力国際 伊藤誠二

「液体試料における PIXE 法の感度向上の試み」
原子力国際 森田明

「ShareFast を用いた CAD 教育支援システムの開発」
環境海洋工学 榎本昌一

「情報・システム初心者による e ラーニングの検討」
機械工学 石川明克

「EBSP 解析装置及び試料測定 (研磨) 条件の基礎を学ぶ」
マテリアル工学 中村光弘

「学内共同利用施設の技術職員としての 39 年間」
原子力国際 江口星雄

「メダカの微小重力実験」 原子力国際 江口星雄

「ラジコン操作型・「トロッコ押しロボット」の作製と問
題点」 環境海洋工学 吉田二郎

特別講演 16:00 ~ 17:00

「新世紀の工学と人材育成：そのビジョンと倫理」
機械工学 笠木伸英

表彰式・閉会挨拶 17:25 ~ 17:35

お知らせ

大学院工学系研究科・工学部

イアエステ国際インターンシップ派遣説明会 開催のお知らせ

東京大学イアエステ委員会では、下記により国際イン
ターンシップの派遣説明会を開催します。イアエステ
(IAESTE) は、工・理・農・薬学系学生を中心に国際
インターンシップを推進している組織です。世界約 80
カ国に国内委員会を持ち、1948 年に発足して以来、ヨー
ロッパを中心に活動を続けています。ユネスコ等を諮問
団体として、世界で 4,000 社に及ぶ企業・大学の後援の
もと、これまでに延べ 30 万人近い学生を交換してきま
した。イアエステ理事校のひとつである東京大学は、東
京大学イアエステ委員会が学内委員会として対応し、活
発な派遣および受け入れの国際交流を推進しています。

現在、イアエステは 2008 年度イアエステ国際インター
ンシップ派遣生を募集しています。理系で国際インター
ンシップに興味がある方は、是非お気軽に足をお運びく
ださい。

日時：10月2日(火) 12:00 ~ 12:50 (第1回)
10月10日(水) 12:00 ~ 12:50 (第2回)

場所：いずれも、工学部2号館4階245講義室

内容：

- ① IAESTE プログラムの概要の説明 12:00 ~ 12:15
- ② 派遣生 OB・OG による研修例の紹介 12:15 ~ 12:40
- ③ 質疑応答 12:40 ~ 12:50



派遣生 OB、OG による研修報告 (昨年度)

お知らせ

大学院教育学研究科・教育学部

心理教育相談室公開講座 「若者の引きこもりと就労支援」のお知らせ

心理教育相談室(室長：下山晴彦教授)は、臨床心理
学の現場で向き合う様々な話題の中で、特に当相談室で
多く受けるケースを広くご理解いただくため、公開講座
を開催いたします。

相談室開室 50 周年を迎える今年、社会的にも関心
の高いテーマの一つである「引きこもり」を取り上げま
す。若者の引きこもり援助の第一人者である近藤直司氏
と、数々の就労支援事業に携わってきた半田有通氏の両
名による講演・シンポジウムは、全国で 100 万人を超え
るともいわれる、引きこもり問題の打開に向けた取り組
みと展望を知る、大変貴重な機会となります。

教育現場、若者支援に携わる専門家の方々だけでなく、
学生やこの問題に関心のある方が、幅広くご理解いた
けるような講座にしたいと考えております。

日時：10月13日(土) 13:00 ~ 15:00

場所：本郷キャンパス 山上会館 2階大会議室

プログラム(敬称略)：

司会：下山晴彦 心理教育相談室長
本学教育学研究科教授

13:00 ~ ご挨拶

武藤芳照 本学教育学研究科専攻長

13:05 ～ 講演 1

「若者の引きこもりについて」

近藤直司 山梨県立精神保健福祉センター・所長／
山梨県中央児童相談所・副所長

13:45 ～ 講演 2

「若者の就労支援の構想－若者自立塾・サポートステーション創設時の経験から－」

半田有通 厚生労働省 前職業能力開発局 キャリア
形成支援室長（現・労働基準局 安全衛生部
環境改善室長）

14:20 ～ 現場報告

「若者の就労支援の現状と課題」

就労支援サポートステーションのスタッフ

14:30 ～ シンポジウム

「引きこもる若者をどのように支援するか」

シンポジスト 近藤直司 + 半田有通

定員：120名（要事前予約）

入場料：無料

申込期間：8月24日～9月30日

申込方法：FAX：03-3818-0459（申込専用・24時間受付）

メール：koukai@p.u-tokyo.ac.jp

（氏名・住所・電話番号・所属を明記してください）

お知らせ

大学院総合文化研究科・教養学部

教養学部で第3回室内楽演奏会の開催

大学院総合文化研究科・教養学部では、恒例となりました室内楽演奏会を次のとおり開催いたします。このたびは、国際的に活躍なさっている松岡みやびさん（ハープ）、甲田さくやさん（ソプラノ）のお二人をお迎えし、ハープとソプラノばかりでなく、ハープ、打楽器、ソプラノ、語りによるギリシア神話の世界もお楽しみいただけます。どうぞご期待ください。入場は無料です。ホームページを開設しておりますので、ぜひご覧ください。

<http://organ.c.u-tokyo.ac.jp>

日時 10月25日（木）18時30分開演（18時開場）

場所 教養学部900番教室（講堂）

曲目 第一部〈ハープ・ソロ〉

J・バッハヘルベル

カノン ニ長調（マクドナルド&ウッド編曲）

G・F・ヘンデル

ハープ協奏曲 変ロ長調 より 第一楽章（M・グランジャーニ編曲、カデンツァ：M・グランジャーニ／松岡みやび）

黛敏郎

ハープのための「六段」

F・ボルヌ

ビゼーの『カルメン』による華麗なる幻想曲（松岡みやび編曲）

第二部〈ソプラノとハープ〉

J・S・バッハ／Ch・グノー

アヴェ・マリア

G・プッチーニ

歌劇『ジャンニ・スキッキ』より ラウレッタのアリア
「私のお父さん」

M・トゥルニエ

庭師からの手紙

F・プーランク

わがギターに寄す

R・シューマン

3つの歌（op.95）

第三部〈ハープ、打楽器、ソプラノ、ナレーション〉

R・マリー＝シェーファー

ギリシア神話物語『アリアドネの冠』より

1. アリアドネの目覚め

2. アリアドネの踊り

5. 太陽の踊り

6. 迷宮の踊り（テセウスとアリアドネ）

演奏 松岡みやび（ハープ）

甲田さくや（ソプラノ）

（大学院総合文化研究科・教養学部オルガン委員会）

学内広報月刊化のお知らせ

学内広報は今号より月に1回のペースで発行されることになりました。

月刊化にともない、EVENT LISTはなくなりました。
今後はホームページ・ポータルサイトをご活用ください。

今後、INFORMATION記事ご寄稿の際には、記事上の開催日・〆切等が当該号配布日以降であることをご確認のうえ、お送りください。また、即時性を要求される告知記事の掲載はホームページ・ポータルサイトをご活用ください。

2007年度後半の学内広報発行スケジュール

号数	原稿締切日 (原則第1月曜日)	発行日	配付日
1364	10月1日(月)	10月15日(月)	10月19日(金)
1365	10月29日(月)	11月9日(金)	11月15日(木)
1366	学生生活実態調査特集号(予定)		
1367	12月3日(月)	12月14日(金)	12月20日(木)
1368	1月9日(水)	1月24日(木)	1月30日(水)
1369	2月4日(月)	2月18日(月)	2月22日(金)
1370	セクシュアル・ハラスメント アンケート結果特集号(予定)		
1371	3月3日(月)	3月14日(金)	3月21日(金)

※1月は連休があるため、締切日を第2水曜日とします。

学内広報にご寄稿の際は、以下のURLにある「記事提出要領」をご参照ください。

http://www.u-tokyo.ac.jp/gen03/kouhou_j.html

【東京大学ホームページ】→【右下の学内広報アイコンをクリック】

問い合わせ先・原稿提出先

本部広報グループ 広報企画チーム

TEL:03-3811-3393 内線22031 E-mail:kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp



コピーの削減に向けて

—ほんの少しの意識改革と工夫を—

コピーにはこれだけコストがかかっている！

皆様は今までコピーにどれくらいのコストがかかっていたのかご存知ですか？平成18年度における本学のコピー枚数は年間約8千万枚に達し、本学のコピーコストは年間約7億円（用紙代を除く）にもなります。つまり、1日あたり190万円以上のコピーコストをかけてきたこととなります。そして、皆様ご存知のとおり、調達本部が調達改善の一環として、平成19年度よりコピー枚数が多くなるほど単価が逡減していく方式（賃貸借料+保守料）から、枚数に関係なく単価を一定にする方式に段階的に移行することになりました。この「1枚当たり」にこだわった単価設定により、移行完了時には1枚当たりの単価を60%程下げられることになり、コピー枚数が少なければ少ないほど全体のコストも低く抑えられることが可能になったのです。

コピー削減WGの取り組みとは

そしてここからが私達の取り組んでいる課題です。コピー枚数を減らす方法としてまず皆様はどのような方法が頭に浮かびますか？「電子化システムの導入（ペーパーレス化）」でしょうか？しかし、その過程で膨大な経費がかかるようでは話が矛盾してしまいます。それとも「両面コピー」でしょうか？確かにコピー用紙は半減できますが、コピー枚数は減りません。

私達は、実際にコピーをする教職員1人1人のほんの少しの意識改革と工夫によってコピー枚数を減らすことにより、コスト削減ができないかということを考えました。また、意外と知られていないカラーコピーのコストにも注目しました。そこでコピー削減のために皆様に今すぐにも取り組める2つの方法、「モノクロ化」と「2アップ機能」を紹介します。

モノクロ化 —カラーコピーの驚くべき値段—

—昔前に比べると格段にコピー機の性能が向上しカラーコピーが手軽になりました。それに伴い、本学でもカラーコピーの割合は年々上昇しています。しかし、フルカラー（約15円）はモノクロ（約3円）に比べ実に約5倍ものコストがかかっているということを覚えておいてください。※

そこで、モノクロ化への意識改革が必要になります。カラーで作成された資料は大変見栄えがしますが、カラーでなければ伝わらない情報はそれほど多くはないはずですが、また、カラー資料であっても二次的に配布・保存するために複製する場合はモノクロコピーで十分な場合もあります。ですから、カラーコピーをする際には本当にカラーである必要があるかどうかをもう一度考えてください。カラーコピーを控えるという意識改革は個人レベルですぐに実行できかつコスト削減に効果的な方法なのです。

※平成19年度全コピー機平均単価です。

必要のないカラーコピーをとっていませんか？

カラーコピーを減らしましょう！

平成0年×月×日
OOグループOOチーム
OO会議 開催通知
下記のとおり・・・・・・・・・
・・・・・・OO会議を開催いたします。
記
☆ 日時 ○月○日（○曜日）
☆ 場所 ○号館OO会議室
☆ 議題 ○〇について
以上

本当にカラーの
必要がありますか？

カラーコピー料金はモノクロのおよそ5倍！

カラーは1枚あたり約15円（H19平均単価）の経費がかかりますが、モノクロであれば1枚あたり約3円（H19平均単価）で済みます。

コピーはできるだけモノクロでとることを心がけ、必要に応じてカラーコピーをとるようにしましょう！

また、2色刷り（赤/黒）であれば1枚あたり約4円（H19平均単価）で済みます。大いに利用しましょう。

東京大学におけるコピー枚数は年間約8千万枚に達し、約7億円の
コピーコスト（紙代除く）がかかっています。（平成18年度実績）



2アップ機能とは？ -コピー枚数を半減させる-

先程も申し上げたとおり「両面コピー」によるコスト削減効果はコピー用紙1枚分（A4の場合、約0.5円）です。そこで考えていただきたいのは、「コピー用紙の削減」と「コピー枚数の削減」とは、ちょっと意味合いが違うということなのです。それでは、コピー枚数を減らす簡単な工夫とは？それが、2枚の原稿を1枚にまとめてコピーする2アップ機能なのです。現在設置されているほとんどのコピー機にこの機能があります。例えば片面2枚で印刷されている場合でも、この機能を使えばコピー用紙が1枚になるうえに、コピーコストも1枚分で済むこととなります。これはぜひ使っていただきたい機能です。この機能は簡単に使えるのですが、利用方法をご存じでない方も多いようです。コピーだけでなくパソコンからプリンタで印刷する際もプロパティ（印刷設定画面）で使用できます。職場で知らない方がいたらどんどん教えてあげてください。（4アップも可能です。）

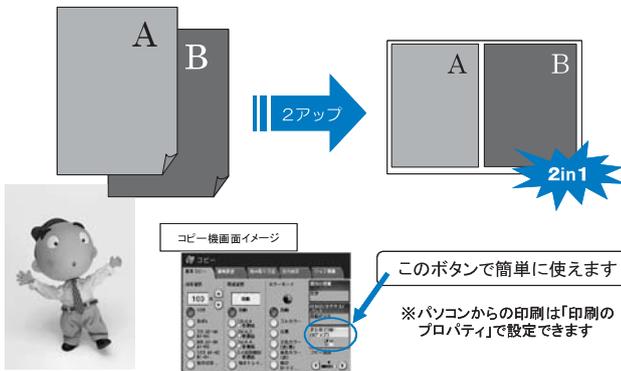
コピーの削減に向けて —ほんの少しの意識改革と工夫を—

コピー削減WGでは先日「事務長会議等の資料の部局内配布実態調査のお願い」を実施しました。その結果、1回の会議において、大学全体で1,500部を超えるコピーがされていることが判明しました。「モノクロ化」と「2アップ機能」の提案を実行していただければ大幅なコスト削減が可能となります。

また今回の調査では、会議資料の配付をやめてプロジェクトで説明したり、URLで閲覧できるようにしたりと改善が進んでいる部局もあることが分かりました。さらに、ポータルサイトにおける会議終了後の速やかな資料の掲載を進めていますので、ポータルサイトを活用し、コピー枚数の削減を図ることも可能です。

2画面を1枚にまとめてコピーする

2アップ機能を使いましょう!



【2画面をコピー(モノクロ)する場合】

紙代約0.5円×2枚+コピー料金約3円×2回=約7円

2アップ機能を使うと
紙代約0.5円×1枚+コピー料金約3円×1回=約3.5円 ⇒ 約3.5円の経費節減!

※両面コピーでは
紙代約0.5円×1枚+コピー料金約3円×2回=約6.5円 ⇒ 約0.5円のみ経費節減

両面コピーに比べ経費節減効果は7倍!

終わりに

コピー削減WGでは、コピー削減に向けてポスターを作成しましたので、コピー機の周辺に掲示願います。（ポータルサイトにも掲載済みです。）この機会にぜひコピー削減について考えていただければと思います。

なお、業務改善プロジェクト推進本部では、今後はより本質的な改善として、会議資料そのものの改善に向けて、資料作成は簡潔明瞭にA4用紙1枚に収めるなどの工夫を検討していく予定です。

業務改善プロジェクト推進本部
コピー削減WG

本件連絡先：
本部業務改善グループ
(内線21042)

**経費節減及び資源保護のためにも、
コピー枚数の削減にご協力をお願いします!**

人事異動（教員）

発令日、部局、職、氏名（五十音）順

発令日	氏名	異動内容	旧（現）職等
（退 職）			
19.7.13	蟻川 恒正	辞 職	大学院法学政治学研究科教授
19.7.15	岡田 文雄	辞 職（東京大学大学院工学系研究科産学官連携研究員）	大学院工学系研究科准教授
19.7.31	武田 裕子	辞 職（三重大学大学院医学系研究科寄付講座教授）	医学教育国際協力研究センター准教授
19.7.31	濱口 哲也	辞 職（東京大学大学院工学系研究科社会連携講座教員）	大学院工学系研究科准教授
19.7.31	佐藤 典治	辞 職	医科学研究所附属病院准教授
19.8.31	西平 直	辞 職（京都大学大学院教育学研究科教授）	大学院教育学研究科准教授
19.8.31	春山 成子	辞 職（三重大学大学院生物資源学研究科教授）	大学院新領域創成科学研究科准教授
（採 用）			
19.7.16	荒巻 健二	大学院総合文化研究科教授	財務総合政策研究所次長
19.7.16	竹内 健	大学院新領域創成科学研究科准教授	
19.8.1	岡 明	大学院医学系研究科准教授	国立成育医療センター病院神経内科医長
19.8.1	越田 澄人	大学院理学系研究科准教授	大学共同利用機関法人自然科学研究機構基礎生物学研究所助教
19.9.1	岡部 繁男	大学院医学系研究科教授	東京医科歯科大学教授
19.9.1	狩野 方伸	大学院医学系研究科教授	大阪大学大学院医学系研究科教授
19.9.1	平原 聖文	大学院理学系研究科教授	
19.9.1	坪井 貴司	大学院総合文化研究科准教授	独立行政法人理化学研究所基礎科学特別研究員
（昇 任）			
19.7.16	姫野 武洋	大学院工学系研究科准教授	大学院工学系研究科講師
19.7.16	土居 守	大学院理学系研究科附属天文学教育研究センター教授	大学院理学系研究科附属天文学教育研究センター准教授
19.7.16	鴨田 重裕	大学院農学生命科学研究科附属演習林准教授	大学院農学生命科学研究科附属演習林講師
19.8.1	金森 豊	大学院医学系研究科准教授	医学部講師
19.8.1	池谷 裕二	大学院薬学系研究科准教授	大学院薬学系研究科講師
19.8.1	松尾 宇泰	大学院情報理工学系研究科准教授	大学院情報理工学系研究科講師
19.8.16	常行 真司	大学院理学系研究科教授	大学院理学系研究科准教授
19.8.16	中谷 正生	地震研究所附属地震予知研究推進センター准教授	地震研究所附属地震予知研究推進センター助教
19.9.1	飯野 雄一	大学院理学系研究科教授	遺伝子実験施設准教授
19.9.1	菅 豊	東洋文化研究所教授	東洋文化研究所准教授
19.9.1	工藤 一秋	生産技術研究所教授	生産技術研究所准教授
（配 置 換）			
19.8.1	奥脇 直也	大学院法学政治学研究科教授	大学院公共政策学連携研究部教授
19.8.1	市村 英彦	大学院経済学研究科教授	大学院公共政策学連携研究部教授
19.8.1	大橋 弘	大学院経済学研究科准教授	大学院公共政策学連携研究部准教授
19.8.1	交告 尚史	大学院公共政策学連携研究部教授	大学院法学政治学研究科教授
19.9.1	岩坪 威	大学院医学系研究科教授	大学院薬学系研究科教授

※退職後又は採用前の職等については、国の機関及び従前国の機関であった法人等のみ掲載した。

東京大学における教員の任期に関する規則に基づく専攻、講座、研究部門等の発令については、記載を省略した。

Contents

特集

- 02 オープンキャンパス 2007
04 「東大ナビ」 はじまります！

NEWS

- 06 米国化学会受賞
英国王位アカデミー・フェロー
- 一般ニュース**
- 07 本部学生交流企画グループ
Yale Summer Session 開催される
- 07 環境安全本部
「総長による安全衛生パトロール」実施される
- 部局ニュース**
- 08 史料編纂所
画像史料解析センター開設 10 周年記念研究集会
「画像史料研究の成果と課題」を開催
- 09 大学院教育学研究科・教育学部
教育学部附属中等教育学校で『学びの共同体』
の授業検討会実施される
- 09 大学院総合文化研究科・教養学部
三鷹国際学生宿舎で「七夕パーティー」開催される
- 10 大学院農学生命科学研究科・農学部
農学部獣医学専修 5 年生の附属牧場実習日記
- 11 医学部附属病院
「2008 看護フォーラム」での看護師募集活動について
- 12 海洋研究所
海洋研究所一般公開
- 12 分子細胞生物学研究所
「独創的研究の神髄をコーンバーク父子から学ぶ」
東京大学堀場国際会議東大 130 周年記念事業開催
される
- 13 教養学部・大学院情報学環・大学総合教育研究センター
駒場アクティブラーニングスタジオ (KALS)
開設・竣工披露式典及び祝賀会を開催
- 14 先端科学技術研究センター
先端科学技術で支える大学進学
- 15 本部キャリアサポートグループ
平成 19 年度第 1 回学生窓口業務担当者講習会を開催
- 15 社会科学研究所
第 3 回 SSJ データアーカイブ優秀論文表彰式行われる
- 16 先端科学技術研究センター
知識融合の場～インテレクチャル・カフェより発信
- 16 地震研究所
一般公開・公開講義を開催
- 17 気候システム研究センター
気候モデリングに関する 4 大学連携バーチャル
ラボラトリー講習会開かれる
- 17 大学院総合文化研究科・教養学部
「直島哲学キャンプ」、開催される

キャンパスニュース

- 18 大学院工学系研究科・工学部
東京大学イアエステ研修生 歓迎会

コラム

- 19 発掘！総長室総括委員会
～東大に生まれる新組織たち～ 第 1 回
- 20 サステナな日々
～キャンパスから考えるサステナビリティ～ vol.1
- 21 Crossroad ～産学連携本部だより～ vol.22
- 22 Step by Step 東大基金通信 第 5 回
- 23 インタープリターズ・バイブル vol.9

- 23 コミュニケーションセンターだより No.39
- 24 Relay Column 「ワタシのオシゴト」 第 19 回
- 24 噴水 教育学部附属中等教育学校で、1 年生総合
学習発表会が行われる

INFORMATION

シンポジウム・講演会

- 25 人工工学研究センター
創立 130 周年記念事業・国際会議「デザインの
科学—創ることと分ることの本質を探る—」
公開コロキウム
- 25 ナノバイオ・インテグレーション研究拠点
Swiss-Japan NanoBio Symposium
- 26 分子細胞生物学研究所
「分生研シンポジウム・膜輸送体の構造生物学」
のご案内
- 26 21COE プログラム、大学院工学系研究科・工学部
Dr. Amory B. Lovins 講演会開催のお知らせ
- 27 先端科学技術研究センター
設立 20 周年記念シンポジウム開催のお知らせ
- 27 国際連携本部
ASNET 主催・東京大学シンポジウム
「アジアと語る希望・幸福」

募集

- 29 大学院人文社会系研究科・文学部
平成 20 (2008) 年度大学院人文社会系研究科
入学試験日程を発表
- 29 総括プロジェクト機構
学内研究連携ユニットの募集について

お知らせ

- 30 本部入試グループ
各種選抜要項・募集要項等の配付のお知らせ
- 36 情報基盤センター
「情報探索ガイダンス」各種コース実施のお知らせ
- 36 大学院工学系研究科・工学部
第 22 回工学部・工学系研究科技術発表会
開催のおしらせ
- 37 大学院工学系研究科・工学部
イアエステ国際インターンシップ派遣説明会
開催のお知らせ
- 37 大学院教育学研究科・教育学部
心理教育相談室公開講座
「若者の引きこもりと就労支援」のお知らせ
- 38 大学院総合文化研究科・教養学部
教養学部で第 3 回室内楽演奏会の開催

40 コピーの削減に向けて

42 人事異動 (教員)

淡青評論

- 44 アクティブラーニングの秘訣

編集後記

今号は月刊化第 1 号です。それと同時に連載も 2 本増え、
特集はカラーになりました！担当者一同気持ちも新たに
頑張りますので、今後もよろしくお願ひします。(こ)



七徳堂鬼瓦

アクティブラーニングの秘訣

2007年7月、駒場キャンパスに「駒場アクティブラーニングスタジオ」(KALS)が開設された。KALSは、東京大学アクションプランに記載されている「理想の教養教育」のモデル教室として、教養学部・情報学環・大学総合教育研究センターが協力して設置したものである。アクティブラーニングは、「読解・作文・討論・問題解決活動において分析・総合・評価のような高次思考課題を行う学習スタイル」であり、問題が複雑化する社会で活躍できる人材を育成するために注目されている教育方法である。KALSには、まがたま型テーブルや40台のタブレット

PCを自由に組み合わせられるフレキシブルな空間、NHKアーカイブスの映像ビューア、批判的読解支援ソフトウェア、分子モデルシミュレータなどの思考の素材、パーソナルレスポンスシステム（学習者の回答をリアルタイムにグラフとして表示する装置）や4面ワイヤレスプロジェクタなど、個人やグループの思考や討論の過程を共有するための設備が用意されている。（KALSの詳細については <http://www.kals.c.u-tokyo.ac.jp/> をご参照いただきたい。）

新しい教室の話をする、「また仕事が増えるのか」と思われる教員の方もいらっしゃるかもしれない。しかし、アクティブラーニングは上手に行えば、教員のロードを増やすことなく学生のパフォーマンスを確保できる方法なのである。

MITにTEAL Studioという教養物理のためのアクティブラーニング教室を見学したときに興味深いことを聞いた。TEAL Studioでの授業は、大講義と比較して成績が向上したことで有名になったが、その理由を担当の教員に聞いたところ、「大講義であれば寝ていても時間は過ぎるが、TEALでは、休むことなく実験や思考・討論活動が行われる。また、教員は常につまづきをサポートし、学生と対話しているため、これで成績が上がらない方が不思議である。」という答えが帰ってきた。教員が美しい教材を作ることが重要なのではなく、学生に常に考えさせ続けるための仕組みをどう作るかが、アクティブラーニング成功の秘訣なのである。KALSも 高度な課題に真剣に取り組むことによって学生が持つ潜在能力を引き出す場になることを期待している。

山内 祐平（大学院情報学環・学際情報学府）

（淡青評論は、学内の教職員の方々にお願いして、個人の立場で自由に意見を述べていただく欄です。）

[訂正]

学内広報において、一部誤りがありましたので訂正いたします。

関係部局および関係者の皆様に深くお詫び申し上げます。

No.1362 (2007.7.25)

2ページ：下から7行目

誤：一之瀬正樹

正：一ノ瀬正樹

5ページ：1行目

誤：ソウル大学 フォーラム内容

正：高麗大学 フォーラム内容

この「学内広報」の記事を転載・引用する場合には、事前に広報委員会の了承を得、掲載した刊行物若干部を広報委員会までお送りください。なお、記事についての問い合わせ及び意見の申し入れは、本部広報グループを通じて行ってください。

No.1363 2007年9月14日
東京大学広報委員会

〒113-8654

東京都文京区本郷7丁目3番1号
東京大学本部広報グループ

TEL：03-3811-3393

e-mail：kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

<http://www.u-tokyo.ac.jp>